

Dell EMC OpenManage Server Administrator

バージョン 10.0.1

ユーザーズ ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	6
OMSA 顧客調査.....	6
インストール.....	6
本リリースの新機能.....	7
対応オペレーティングシステム.....	7
個々のシステムコンポーネントのアップデート.....	7
Storage Management Service.....	8
計装サービス.....	8
Remote Access Controller.....	8
ログ.....	8
利用可能なシステム管理標準.....	8
利用可能な対応オペレーティングシステム.....	8
Server Administrator ホームページ.....	9
その他の必要マニュアル.....	9
Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス.....	10
テクニカルサポートの利用法.....	10
Dell EMC へのお問い合わせ.....	11
章 2: 設定と管理	12
役割ベースのアクセスコントロール.....	12
ユーザー権限.....	12
認証.....	13
Microsoft Windows 認証.....	13
Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server 認証.....	13
VMware ESXi Server 認証.....	13
暗号化.....	13
ユーザー特権の割り当て.....	13
Windows オペレーティングシステムのドメインへのユーザーの追加.....	14
対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムで の Server Administrator ユーザーの作成.....	14
対応 Windows オペレーティングシステム上でのゲストアカウントと匿名アカウントの無効化.....	16
SNMP エージェントの設定.....	16
対応 Red Hat Enterprise オペレーティングシステムおよび SUSE Linux Enterprise Server を実行す るシステムでのファイアウォール設定.....	22
章 3: Server Administrator の使用	23
ログインおよびログアウト.....	23
Server Administrator ローカルシステムログイン.....	23
Server Administrator 管理下システムログイン — デスクトップアイコンを使用.....	23
Server Administrator 管理システムログイン — ウェブブラウザを使用した場合.....	24
Central Web Server ログイン.....	24
Active Directory ログインの使用.....	25
シングルサインオン.....	25
対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼動するシステム上のセキュリティ設定.....	25
Server Administrator ホームページ.....	26

モジュラーおよび非モジュラーシステムにおける Server Administrator ユーザーインターフェースの違い	28
グローバルナビゲーションバー	29
システムツリー	29
処置ウィンドウ	29
データ領域	29
オンラインヘルプの使用	31
プリファランスホームページの使い方	31
管理下システムのプリファランス	31
Server Administrator ウェブサーバーのプリファランス	32
Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定	32
X.509 証明書管理	34
Server Administrator Web Server の処置タブ	35
ウェブサーバーのアップグレード	35
Server Administrator コマンドラインインターフェースの使い方	36
章 4: Server Administrator サービス	37
システムの管理	37
システムまたはサーバモジュールツリーオブジェクトの管理	38
Server Administrator ホームページシステムツリーオブジェクト	38
モジュラーエンクロージャ	38
Chassis Management Controller にアクセスして使用する	39
システムまたはサーバモジュールプロパティ	39
メインシステムシャーシまたはメインシステム	41
プリファランスホームページ設定オプションの管理	51
一般設定	51
Server Administrator	51
章 5: Server Administrator ログ	52
組み込み機能	52
ログ ウィンドウのタスク ボタン	52
Server Administrator ログ	52
ハードウェアログ	53
アラートログ	53
コマンドログ	54
章 6: Remote Access Controller の操作	55
基本情報の表示	56
リモートアクセスデバイスの LAN 接続使用の設定	57
シリアルポート接続用リモートアクセスデバイスの設定	58
リモートアクセスデバイスのシリアルオーバー LAN 接続使用の設定	58
iDRAC の追加設定	59
リモートアクセスデバイスユーザーの設定	59
プラットフォームのイベントフィルタアラートの設定	60
プラットフォームイベントアラート送信先の設定	61
章 7: アラート処置の設定	62
対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムが実行されるシステムにおけるアラート処置の設定	62

アプリケーションを実行する Windows Server でのアラート処置の設定.....	63
BMC または iDRAC プラットフォームイベントフィルタアラートメッセージ.....	63
章 8: トラブルシューティング.....	65
ログイン失敗のシナリオ.....	65
対応 Windows オペレーティングシステムで Server Administrator のインストールエラーを修正する.....	65
Server Administrator サービス.....	66
章 9: よくあるお問い合わせ (FAQ)	68
付録 A: Dell EMC PowerEdge サーバーのシリーズの特定.....	70

はじめに

Server Administrator は、統合されたブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI)、およびオペレーティングシステムを使用したコマンドラインインターフェース (CLI) の 2 つの方法で、包括的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションを提供します。Server Administrator は、システム管理者がローカルで、またはネットワーク経由でリモートでシステムを管理することを可能にし、包括的な 1 対 1 のシステム管理を提供することにより、システム管理者がネットワーク全体の管理に集中できるようにします。Server Administrator のコンテキストでは、システムとはスタンドアロンシステム、接続されたネットワークストレージが個別のシャーシにあるシステム、またはモジュラーエンクロージャにある複数のサーバーモジュールで構成されるモジュラーシステムを指します。Server Administrator は次のような情報を提供します。

- 正常に動作しているシステムと問題があるシステム
- リモートリカバリ操作が必要なシステム

Server Administrator は、包括的な一連の統合された管理サービスを通して、使いやすい管理およびローカルとリモートシステムの管理を提供します。Server Administrator は、管理下システム上で唯一のインストールであり、ローカルでもリモートでも、**Server Administrator** ホームページからアクセスできます。リモートにモニタされるシステムは、ダイアルイン、LAN、またはワイヤレス接続でアクセスできます。Server Administrator は、役割ベースのアクセスコントロール (RBAC) 認証、SSL 暗号化を使って管理接続のセキュリティを保証します。

トピック：

- [OMSA 顧客調査](#)
- [インストール](#)
- [本リリースの新機能](#)
- [対応オペレーティングシステム](#)
- [個々のシステムコンポーネントのアップデート](#)
- [Storage Management Service](#)
- [計装サービス](#)
- [Remote Access Controller](#)
- [ログ](#)
- [利用可能なシステム管理標準](#)
- [Server Administrator ホームページ](#)
- [その他の必要マニュアル](#)
- [テクニカルサポートの利用法](#)
- [Dell EMC へのお問い合わせ](#)

OMSA 顧客調査

調査リンク：<https://secure.opinionlab.com>

デル・テクノロジーズは、OMSA のお客様へのアンケート調査、フィードバックの収集、提案の実施を独占的に行っています。お客様は上記のリンクを使用して、Windows や Linux ベースのインストールなど、OMSA の使用時のさまざまな段階で、OMSA の GUI と CLI、VMware ESXi を使用しながら、アンケートに回答することができます。

インストール

Server Administrator は、『*Dell EMC Systems Management Tools and Documentation ソフトウェア*』を使ってインストールできます。このソフトウェアは、Server Administrator、Managed System、および Management Station の各ソフトウェアのコンポーネントをインストール、アップグレード、およびアンインストールするためのセットアッププログラムを提供します。また、ネットワーク全体で無人インストールを行い、複数のシステムに Server Administrator をインストールすることもできます。Server Administrator インストーラは、お使いの管理下システムにおける Server Administrator およびその他の管理下システムソフトウェアコンポーネントをインストール / アンインストールするためのインストールスクリプトと RPM パッケージを提供します。詳細については、dell.com/opemanagementmanuals で『*Dell EMC Server Administrator インストールガイド*』および『*Dell EMC Server Management Station Software インストールガイド*』を参照してください。

① **メモ:** 『Dell EMC Systems Management ツールおよびマニュアル』ソフトウェアからオープンソースパッケージをインストールすると、対応するライセンスファイルがシステムに自動的にコピーされます。これらのパッケージを削除すると、対応するライセンスファイルも削除されます。

① **メモ:** モジュールシステムがある場合、シャーシに取り付けられている各サーバモジュールに Server Administrator をインストールします。

本リリースの新機能

OpenManage Server Administrator の新リリースに追加された主な機能は次のとおりです。

- サポートされる新機能：
 - Server Administrator にバンドルされた Oracle Java Runtime Environment 11.0.9 および Tomcat 9.0.45
 - YX5X 世代の PowerEdge サーバーの場合、イベントを解決するための解決手順に関して追加の推奨事項を提供する新しいメモリー イベントがサポートされます。
- 対応プラットフォーム：
 - PowerEdge R750
 - PowerEdge R750XA
 - PowerEdge R650
 - PowerEdge MX750c
 - PowerEdge C6520
- ① **メモ:** サポートされるオペレーティングシステムおよび Dell のサーバについては、dell.com/openmanagemanuals で必要なバージョンの **OpenManage Software** のページにある『Dell EMC OpenManage システムソフトウェアサポートマトリックス』を参照してください。
- ① **メモ:** すべての機能の詳細については、OpenManage Server Administrator の状況依存オンラインヘルプを参照してください。
- ① **メモ:** 9.3.0 以降、Server Administrator の RPM パッケージは、新しい Dell SHA-512 署名キーで署名されています。非対話方式またはサイレント方式で Server Administrator をインストールする場合、インストールまたは現在のバージョンへのアップグレードを実行する前に、信頼性の検証のため、https://linux.dell.com/repo/hardware/dsu/public_gpg3.key からキーをダウンロードして、`rpm --import <key file>` コマンドで各ホストにキーをインポートしてください。キーは一度インポートすれば、Server Administrator のインストールまたは現在のバージョンへのアップグレードを実行するたびにインポートする必要はありません。

対応オペレーティングシステム

- Red Hat Enterprise Linux 8.2 および Red Hat Enterprise Linux 8.3
- Red Hat Enterprise Linux 7.9
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP2
- Ubuntu 20.04 64 ビット版
- VMWare ESXi 6.7 U3 および VMWare ESXi 7.0 U2
- Microsoft Windows 2016
- Microsoft Windows 2019

個々のシステムコンポーネントのアップデート

個々のシステムコンポーネントをアップデートするには、コンポーネント専用の Dell Update Packages を使用します。『Dell Server Update Utility』DVD を使用して、完全なバージョンレポートを表示し、システム全体をアップデートします。Server Update Utility (SUU) は、必要なアップデートを識別してお使いのシステムに適用します。SUU は、support.dell.com からダウンロードできます。

① **メモ:** システムのアップデート、またはリポジトリにリストされているシステム用に使用可能なアップデートの表示のための Server Update Utility (SUU) の入手および使用についての詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Dell Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

Storage Management Service

Storage Management Service は、統合されたグラフィック表示でストレージ管理情報を提供します。

メモ: Storage Management Service の詳細については、dell.com/openmanagemanuals で *Dell EMC Server Administrator Storage Management* のユーザーズガイドを参照してください。

計装サービス

計装サービスは、業界標準システム管理エージェントによって収集された故障と性能についての詳細情報への迅速なアクセスを提供して、シャットダウン、起動、およびセキュリティなど監視下システムのリモート管理を実現します。

Remote Access Controller

Remote Access Controller は、ベースボード管理コントローラ (BMC) / Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) ソリューションを装備したシステム向けの完全なリモートシステム管理ソリューションを提供します。リモートアクセスコントローラは、動作不能のシステムへのリモートアクセスを行い、迅速なシステムの立ち上げを実現します。また、システムがダウンした際には、アラートで通知し、システムをリモートで再起動できるようにします。さらに、リモートアクセスコントローラはシステムクラッシュの推定原因をログに記録し、前回のクラッシュ画面を保存します。

ログ

Server Administrator は、システムに対してまたはシステムによって発行されたコマンド、モニタされたハードウェアイベント、およびシステムアラートのログを表示します。ログは、ホームページで表示したり、レポートとして印刷または保存したり、指定したサービス連絡先に電子メールで送信したりすることができます。

利用可能なシステム管理標準

Server Administrator では、次のシステム管理プロトコルがサポートされています。

- HTTPS
- 共通情報モデル (CIM)
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)

ご利用のシステムが SNMP をサポートしている場合、サービスをインストールし、オペレーティングシステムで有効にします。ご利用のオペレーティングシステムで SNMP サービスが利用できる場合は、Server Administrator のインストールプログラムは、SNMP のサポートエージェントをインストールします。

HTTPS は、すべてのオペレーティングシステムでサポートされています。CIM および SNMP のサポートは、オペレーティングシステムに依存します。また、オペレーティングシステムのバージョンに依存する場合があります。

メモ: SNMP のセキュリティ上の懸念については、Server Administrator のリリースノートファイル (Server Administrator アプリケーションに同梱) を参照、またはそれを dell.com/openmanagemanuals で参照してください。SNMP サブエージェントがセキュアであることを確実にするため、オペレーティングシステムのプライマリー SNMP エージェントからアップデートを適用します。

利用可能な対応オペレーティングシステム

対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、Server Administrator は、CIM/Windows Management Instrumentation (WMI) と SNMP の 2 つのシステム管理標準をサポートしています。対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、Server Administrator は SNMP システム管理標準をサポートしています。

Server Administrator は、これらのシステム管理標準に相当なセキュリティを追加します。すべての属性設定操作 (Asset Tag の値を変更するなど) は、必要な権限を使ってログインしている間に Dell EMC OpenManage Essentials で実行する必要があります。

次の表は、各対応オペレーティングシステムに対して使用可能なシステム管理標準について示しています。

表 1. 利用可能なシステム管理標準

オペレーティングシステム	snmp	CIM
Windows Server 2012 R2 ファミリ	オペレーティングシステムのインストールメディアから使用可能	常にインストール
Red Hat Enterprise Linux	オペレーティングシステムのインストールメディアの net-snmp パッケージから使用可能	使用不可
SUSE Linux Enterprise Server	オペレーティングシステムのインストールメディアの net-snmp パッケージから使用可能	使用不可
VMware ESXi	SNMP トラップのサポート ① メモ: ESXi は SNMP トラップをサポートしていますが、SNMP を介したハードウェアのインベントリをサポートしていません。	使用可能

Server Administrator ホームページ

Server Administrator ホームページは、設定および使用しやすいウェブブラウザベースのシステム管理タスクを、管理下システムまたは LAN、ダイヤルアップサービス、またはワイヤレスネットワーク経由のリモートホストから提供します。Systems Management Server Administrator 接続サービス (DSM SA 接続サービス) が、管理下システムにインストールおよび設定されているとき、サポートされたウェブブラウザおよび接続を持つどのシステムからもリモート管理機能を実行できます。さらに、Server Administrator ホームページでは包括的かつ状況に応じたオンラインヘルプが利用できます。

その他の必要マニュアル

このガイドに加え、[dell.com/softwaresecuritymanuals] で入手できる次のガイドもご利用いただけます。

- 『Dell EMC Systems Software サポートマトリックス』には、各種システム、これらのシステムによってサポートされるオペレーティングシステム、およびこれらのシステムにインストールできるコンポーネントについての情報が記載されています。
- 『Dell EMC OpenManage Server Administrator インストールガイド』では、Dell EMC OpenManage Server Administrator のインストール手順が説明されています。
- 『Dell EMC OpenManage Management Station Software インストールガイド』には、Dell EMC OpenManage Management Station Software のインストールに役立つ手順が説明されています。
- 『Dell EMC OpenManage SNMP リファレンスガイド』には、Simple Network Management Protocol (SNMP) Management Information Base (MIB) が説明されています。
- 『Dell EMC OpenManage Server Administrator CIM リファレンスガイド』では、標準の管理オブジェクトフォーマット (MOF) ファイルの拡張である、共通情報モデル (CIM) プロバイダについて説明しています。
- 『Dell EMC メッセージリファレンスガイド』には、Server Administrator ホームページのアラートログ、またはお使いのオペレーティングシステムのイベントビューアに表示されるメッセージ一覧が掲載されています。
- 『Dell EMC OpenManage Server Administrator コマンドラインインタフェースガイド』には、Server Administrator 用の完全なコマンドラインインタフェースが説明されています。
- 『Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』は、DRAC を設定するための RACADM コマンドラインユーティリティの使用についての包括的な情報を提供しています。
- 『Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド』は、お使いのシステムを含むシャーシの全モジュールを管理するコントローラの使用についての、包括的な情報を提供しています。
- 『iDRAC 6 および CMC 用コマンドラインリファレンスガイド』は、iDRAC6 および CMC 向けの RACADM サブコマンド、対応インタフェース、プロパティデータベースグループ、およびオブジェクト定義についての情報を提供しています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 7 (iDRAC7) ユーザーズガイド』は、ネットワークを介してお使いのシステムとその共有リソースをリモートで管理および監視するため、第 12 世代ラック、タワー、およびブレードサーバー用に iDRAC7 を設定および使用することについての情報を提供しています。
- 『ブレードサーバー用 Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) Enterprise ユーザーガイド』は、ネットワークを介してお使いのシステムとその共有リソースをリモートで管理および監視するため、第 11 世代ブレードサーバー用に iDRAC6 を設定および使用することについての情報を提供しています。
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーガイド』は、ネットワークを介してお使いのシステムとその共有リソースをリモートで管理および監視するため、第 11 世代タワーおよびラックサーバー用に iDRAC6 を設定および使用することについての完全な情報を提供しています。

- 『Dell Online Diagnostics ユーザーズガイド』では、システムでのオンライン診断のインストールおよび使用に関する情報を完全に網羅しています。
- 『Dell OpenManage Baseboard Management Controller ユーティリティ ユーザーズガイド』は Server Administrator を使ったシステムの BMC 設定および管理についての追加情報を提供します。
- 『Dell EMC OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』は、システムに接続されているローカルおよびリモートのストレージを設定、管理するための包括的なリファレンスガイドです。
- 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。
- 『Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』では、DRAC コントローラのインストールと設定方法、および DRAC を使用した作動不能システムへのリモートでのアクセス方法について詳しく説明しています。
- 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方を説明しています。
- 『Dell EMC OpenManage Server Update Utility ユーザーズガイド』では、システムをアップデートしたり、リポジトリに登録されているシステムに適用可能なアップデートを表示したりできる、サーバアップデートユーティリティ (SUU) の入手方法と使用方法に関する情報が記載されています。
- 『Dell Management Console ユーザーズガイド』は、Dell 管理コンソールのインストール、設定、使用について説明しています。
- 『Dell Lifecycle Controller ユーザーズガイド』は、システムのライフサイクルに渡って、システムおよびストレージ管理タスクを行うための、Unified Server Configurator の設定および使用に関する情報を提供しています。
- 『Dell License Manager ユーザーズガイド』は第 12 世代サーバのコンポーネントサーバライセンスの管理に関する情報を提供しています。
- 『用語集』では、本書で使用される用語について説明されています。

Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
 - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
 - Dell EMC 仮想化ソリューション：<https://www.dell.com/SoftwareManuals>
 - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
 - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
 - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
 - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
 1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
 2. [すべての製品の参照] をクリックします。
 3. [すべての製品] ページで [ソフトウェア] をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
 4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。

テクニカルサポートの利用法

ガイドに説明されている手順を理解できない、あるいは製品が予想通り動作しない場合は、ヘルプツールをご利用ください。これらのヘルプツールに関しては、お使いのシステムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』の「ヘルプが必要な場合」を参照してください。

さらに、企業向けのトレーニングと資格認証を実施しております。詳細については、dell.com/training を参照してください。このサービスが提供されていない地域もあります。

Dell EMC へのお問い合わせ

①メモ: お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、または製品カタログで連絡先をご確認ください。

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。Dell EMC のセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

Dell.com/contactdell にアクセスします。

設定と管理

Server Administrator は、ウェブベースおよびコマンドラインのインタフェース両方に対し、役割ベースのアクセス制御 (RBAC)、認証、および暗号化を使用してセキュリティを提供します。

トピック：

- 役割ベースのアクセスコントロール
- 認証
- 暗号化
- ユーザー特権の割り当て

役割ベースのアクセスコントロール

RBAC は特定の役割内のユーザーが実行できる操作を決定して、セキュリティを管理します。各ユーザーには1つ、または複数の役割が割り当てられており、各役割にはその役割内のユーザーが使用できるユーザー権限が1つまたは複数割り当てられています。RBAC によってセキュリティ管理は組織の構造に密接に対応しています。

ユーザー権限

Server Administrator は、ユーザーに割り当てられているグループ権限に基づいてアクセス権を付与します。権限には、ユーザー、パワーユーザー、システム管理者、昇格システム管理者の4種類があります。

表 2. ユーザー権限

ユーザー権限のレベル		アクセスタイプ		説明
	表示		管理	
ユーザー	有		無	ユーザーは、大半の情報を表示できます。
パワーユーザー	有		有	パワーユーザーは、警告しきい値を設定して、警告または障害イベントが発生したときにどのアラート処置を行うかを設定することができます。
システム管理者	有		有	システム管理者は、シャットダウン処理の設定と実行、システムでオペレーティングシステムが応答しない場合の自動回復処置の設定、ハードウェアログ、イベントログ、コマンドログのクリアなどを行います。また、電子メールを送信するようにシステムを設定することもできます。
昇格システム管理者 (Linux のみ)	有		有	昇格システム管理者は、情報を表示および管理できます。

Server Administrator サービスにアクセスするための特権レベル

次の表に、Server Administrator サービスにアクセスして管理する権限を持つユーザーを示します。

Server Administrator では、ユーザー権限でログインしたユーザーは読み取り専用アクセス、パワーユーザー権限でログインしたユーザーは読み取りおよび書き込みアクセス、システム管理者および昇格システム管理者権限でログインしたユーザーは読み取り、書き込み、および管理者アクセスが可能です。

表 3. Server Administrator サービスの管理に必要な権限

サービス	必要なユーザー権限レベル	
	表示	管理

表 3. Server Administrator サービスの管理に必要な権限（続き）

サービス	必要なユーザー権限レベル	
計装	ユーザー、パワーユーザー、システム管理者、昇格システム管理者	パワーユーザー、システム管理者、昇格システム管理者
リモートアクセス	ユーザー、パワーユーザー、システム管理者、昇格システム管理者	管理者、昇格システム管理者
ストレージ管理	ユーザー、パワーユーザー、システム管理者、昇格システム管理者	管理者、昇格システム管理者

認証

Server Administrator 認証スキームを使用すると、正しいアクセスタイプが正しいユーザー権限に割り当てられます。さらに、コマンドラインインタフェース (CLI) が起動すると、Server Administrator 認証スキームが現在のプロセスが実行されているコンテキストを検証します。この認証スキームを使うことにより、Server Administrator ホームページと CLI のいずれからアクセスした場合でもすべての Server Administrator 機能が正しく認証されます。

Microsoft Windows 認証

対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムの場合、Server Administrator の認証に、統合 Windows 認証 (旧称 NTLM) が使用されます。この認証システムは、Server Administrator のセキュリティをネットワークの全体的なセキュリティスキームに組み込むことができます。

Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server 認証

対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、Server Administrator がプラグ認証可能モジュール (PAM) ライブラリに基づいてさまざまな認証方法を使用します。ユーザーは、異なるアカウント管理プロトコル (LDAP、NIS、Kerberos、および Winbind) を使って、ローカルまたはリモートに Server Administrator にログインできます。

VMware ESXi Server 認証

ESXi Server は、vSphere/VI Client またはソフトウェア開発キット (SDK) を使って ESXi ホストにアクセスするユーザーを認証します。ESXi のデフォルトインストールでは、認証にローカルパスワードデータベースが使用されます。Server Administrator の ESXi 認証トランザクションも、**vmware-hostd** プロセスとの直接インタラクションです。サイトで認証が効率的に機能するよう、ユーザー、グループ、許可、および役割の設定、ユーザー属性の設定、自分の証明書追加、および SSL を使用するかどうかの決定などの基本タスクを実行します。

メモ: VMware ESXi Server オペレーティングシステムが稼働しているシステム上で Server Administrator にログインするには、どのユーザーも管理者権限が必要です。役割の割り当てについては、VMware のマニュアルを参照してください。

暗号化

管理下システムを識別し保護するため、Server Administrator には SSL (Secure Socket Layer) 技術を使用したセキュア HTTPS 接続を使ってアクセスします。対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでは、ユーザーが **Server Administrator** ホームページにアクセスしたときに、ソケット接続を介して転送されるユーザー資格情報やその他の機密データを、JSSE (Java Secure Socket Extension) を使用して保護します。

ユーザー特権の割り当て

重要なシステムコンポーネントを確実にセキュリティ保護するため、OpenManage ソフトウェアをインストールする前に、すべてのユーザーにユーザー権限を割り当てます。新しいユーザーは、オペレーティングシステムのユーザー権限を使って OpenManage ソフトウェアにログインできます。

△ **注意:** 重要なシステムコンポーネントへのアクセスを保護するため、OpenManage ソフトウェアにアクセスできるユーザーアカウントのすべてにパスワードを割り当てることができます。

△ **注意:** サポートされている Windows オペレーティングシステムに対するゲストアカウントを無効にして、重要なシステムコンポーネントへのアクセスを保護します。リモートスクリプトがデフォルトのゲストアカウント名を使ってアカウントを有効にできないよう、ゲストアカウントの名前を変更することを検討してください。

① **メモ:** 各対応オペレーティングシステムで、ユーザーの作成とユーザー特権の割り当ての手順は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

① **メモ:** OpenManage ソフトウェアにユーザーを追加するには、オペレーティングシステムにユーザーを追加してください。OpenManage ソフトウェア内から新規ユーザーを作成する必要はありません。

Windows オペレーティングシステムのドメインへのユーザーの追加

① **メモ:** 以下の手順を実行するには、Microsoft Active Directory がシステムにインストールされている必要があります。Active Directory の使用の詳細については、「[Active Directory ログインの使用方法](#)」を参照してください。

1. [コントロールパネル] > [管理ツール] > [Active Directory ユーザーとコンピュータ] の順に移動します。
2. コンソールツリーで、[ユーザー] を右クリックするか新規ユーザーを追加するコンテナを右クリックして、[新規作成] > [ユーザー] の順に選択します。
3. ダイアログボックスに適切なユーザー名情報を入力し、[次へ] をクリックします。
4. [次へ] をクリックしてから [終了] をクリックします。
5. 作成したユーザーを表すアイコンをダブルクリックします。
6. [所属するグループ] タブをクリックします。
7. [追加] をクリックします。
8. 該当するグループを選択し、[追加] をクリックします。
9. [OK] をクリックしてから、[OK] を再度クリックします。

① **メモ:** 新しいユーザーは、割り当てられたグループとドメインのユーザー権限で OpenManage にログインできます。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成

システム管理者のアクセス権限は、root としてログインしているユーザーに割り当てられます。ユーザーおよびユーザーグループの作成についての情報は、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

① **メモ:** これらの手順を実行するには、root またはそれと同等のユーザーとしてログインしている必要があります。

① **メモ:** これらの手順を実行するには、システムに `useradd` ユーティリティがインストールされている必要があります。

関連リンク

- [ユーザー特権を持つユーザーの作成](#)
- [パワーユーザー特権を持つユーザーの作成](#)

ユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します: `useradd -d <home-directory> -g <group> <username> (<group> はルートでない)`

① **メモ:** `<group>` が存在しない場合は、[`groupadd`] コマンドを使ってグループを作成してください。

2. `passwd<username>` を入力し、<Enter> を押します。
3. プロンプトが表示されたら、新しいユーザーのパスワードを入力します。

メモ: 重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てます。

新しいユーザーはユーザーというグループ特権を使って Server Administrator にログインできます。

パワーユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します: `useradd -d <home-directory> -g <group> <username>`

メモ: ルートをプライマリグループとして設定します。

2. `passwd<username>`を入力し、<Enter> を押します。

3. プロンプトが表示されたら、新しいユーザーのパスワードを入力します。

メモ: 重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てます。

新しいユーザーはユーザーというグループ特権を使って Server Administrator にログインできます。

Linux オペレーティングシステムで Server Administrator ユーザー権限を編集する

メモ: root ユーザーまたはそれと同等のユーザーとしてログインしている必要があります。

1. `/opt/dell/srvadmin/etc/omarolemap`にある **omarolemap** ファイルを開きます。

2. ファイルに以下を追加します。 `<User_Name>[Tab]<Host_Name>[Tab]<Rights>`

次の表は、**omarolemap** ファイルに役割定義を追加するための凡例を示しています。

表 4. Server Administrator に役割定義を追加するための凡例

<User_Name>	<Host_Name>	<Rights>
ユーザー名	ホスト名	システム管理者
(+) グループ名	ドメイン	ユーザー
ワイルドカード (*)	ワイルドカード (*)	ユーザー
[Tab] = \t (tab character)		

次の表は、**omarolemap** ファイルへの役割定義の追加例を示しています。

表 5. Server Administrator に役割定義を追加するための例

<User_Name>	<Host_Name>	<Rights>
Bob	Ahost	パワーユーザー
+ root	Bhost	システム管理者
+ root	Chost	システム管理者
Bob	*.aus.amer.com	パワーユーザー
Mike	192.168.2.3	パワーユーザー

3. ファイルを保存して閉じます。

omarolemap ファイル使用のベストプラクティス

omarolemap ファイルでの作業時に考慮するベストプラクティスは次のとおりです。

- [omarolemap] ファイルの次のデフォルトエントリは削除しないでください。

表 6. omarolemap ファイル使用のベストプラクティス

ルート	システム管理者
+root	* Poweruser
*	* User


- [omarolemap] ファイルの許可とファイル形式は変更しないでください。
- <Host_Name> には、localhost や 127.0.0.1 のようなループバックアドレスを使用しないでください。
- 接続サービスを再起動したときに **omarolemap** ファイルの変更が反映されない場合は、コマンドログでエラーを調べてください。
- [omarolemap] ファイルを別のコンピュータに移動したとき、ファイル許可とファイルのエントリを再確認する必要があります。
- *Group Name* と + をプレフィックスに付けます。
- 次の場合、Server Administrator はデフォルトのオペレーティングシステムユーザー権限を使用します。
 - ユーザーの権限が [omarolemap] ファイルで降格された。
 - ユーザー名またはユーザーグループのエントリに重複がある <Host_Name>
- Space を、[Tab] の代わりに列の区切り文字として使用することもできます。

VMware ESXi 6.X用の Server Administrator ユーザーの作成

ユーザーテーブルにユーザーを追加するには次の手順を行います。

1. vSphere クライアントを使用してホストにログインします。
2. [ユーザー & グループ] タブをクリックし、[ユーザー] をクリックします。
3. ユーザー テーブルを右クリックし、[追加] をクリックして、[新規ユーザーの追加] ダイアログボックスを開きます。
4. ログイン、ユーザー名、数字から成るユーザー ID (UID)、パスワードを入力します。ユーザー名と UID の指定はオプションです。UID を指定しない場合、vSphere クライアントが利用可能な UID を割り当てます。
5. コマンドシェル経由での ESXi ホストへのアクセスをユーザーに許可するには、[このユーザーにシェルアクセスを許可する] を選択します。シェルアクセスは、vSphere クライアント経由のみでホストにアクセスするユーザーには必要ありません。
6. ユーザーをグループに追加するには、**グループ** ドロップダウンメニューからグループ名を選択し、[追加] をクリックします。
7. [OK] をクリックします。

対応 Windows オペレーティングシステム上でのゲストアカウントと匿名アカウントの無効化

 **メモ:** システム管理者権限でログインしている必要があります。

1. [コンピュータの管理] ウィンドウを開きます。
2. コンソールツリーで、[ローカルユーザーとグループ] を展開し、[ユーザー] をクリックします。
3. これらのユーザーのプロパティを表示するには、[ゲスト] または [IUSR_system] 名ユーザーアカウントをダブルクリック、または [ゲスト] または [IUSR_] システム名ユーザーアカウントを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. [アカウントが無効] を選択し、[OK] をクリックします。
アカウントが無効であることを示す、X の付いた赤い丸がユーザー名の上に表示されます。

SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP—すべての対応オペレーティングシステムにおけるシステム管理標準) をサポートします。SNMP サポートは、オペレーティングシステムによって、またオペレーティングシステムがインストールされた方法によって、インストールされている場合とされていない場合があります。ほとんどの場合、SNMP はオペレーティングシステムのインストールの一環としてインストールされています。SNMP などの、対応システム管理プロトコル標準は、Systems Management のインストール前にインストールしておく必要があります。

コミュニティ名を変更し、管理ステーションにトラップを送信するように SNMP エージェントを設定することができます。OpenManage Essentials などの管理アプリケーションと適切に対話できるように SNMP エージェントを設定するには、次の項の手順を実行します。

メモ: デフォルトの SNMP エージェント設定には通常、パブリックのような SNMP コミュニティ名が含まれます。セキュリティ上の理由から、デフォルト SNMP コミュニティ名を変更する必要があります。残りの SNMP コミュニティ名に関する詳細については、「[SNMP コミュニティ名の変更](#)」を参照してください。

メモ: OpenManage Essentials が Server Administrator を実行しているシステムからの管理情報を取得するには、OpenManage Essentials が使用するコミュニティ名が Server Administrator を実行しているシステムのコミュニティ名と一致する必要があります。OpenManage Essentials が Server Administrator を実行中のシステムで情報を変更するか、またはアクションを実行するには、OpenManage Essentials で使用しているコミュニティ名が Server Administrator を実行中のシステムで設定操作を許可するコミュニティ名と一致する必要があります。OpenManage Essentials が Server Administrator を実行中のシステムからトラップ(非同期イベント通知)を受け取るには、Server Administrator を実行中のシステムが、OpenManage Essentials を実行中のシステムにトラップを送信するよう設定する必要があります。

以下の手順は、対応している各オペレーティングシステムで SNMP エージェントを設定する方法を説明しています。

- [Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)
- [対応 Red Hat Enterprise Linux 環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)
- [対応 SUSE Linux Enterprise Server が実行されるシステムでの SNMP エージェントの設定](#)
- [対応 VMware ESXi 5.X および ESXi 6.X オペレーティングシステムが実行されるシステムにおける SNMP エージェントの設定](#)
- [対応 Ubuntu Server が実行されるシステムでの SNMP エージェントの設定](#)

対応 Windows オペレーティングシステムが稼動するシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、Windows SNMP エージェントに提供される SNMP サービスを使用します。コミュニティ名を変更し、管理ステーションにトラップを送信するように SNMP エージェントを設定することができます。OpenManage Essentials などの管理アプリケーションと適切に対話できるように SNMP エージェントを設定するには、次の項の手順を実行します。

メモ: SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

SNMP コミュニティ名の変更

メモ: Server Administrator から SNMP コミュニティ名を設定することはできません。コミュニティ名は、オペレーティングシステムの SNMP ツールを使用して設定してください。

SNMP コミュニティ名を設定することで、どのシステムが SNMP を使用してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator のシステムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

1. [コンピュータの管理] ウィンドウを開きます。
2. 必要に応じて、同ウィンドウの [コンピュータの管理] アイコンを展開します。
3. [サービスとアプリケーション] アイコンを展開して、[サービス] をクリックします。
4. リストを下にスクロールして [SNMP サービス] を見つけ、[SNMP サービス] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

[SNMP サービスプロパティ] ウィンドウが無効化されます。

5. [セキュリティ] タブをクリックして、コミュニティ名を追加または編集します。

コミュニティ名を追加するには、次を行います。

- a. [受理されたコミュニティ名] リストで [追加] をクリックします。

[SNMP サービス設定] ウィンドウが表示されます。

- b. [コミュニティ名] ボックスで、システムを管理できるシステムのコミュニティ名 (デフォルトは public) を入力して、[追加] をクリックします。

[SNMP サービスプロパティ] ウィンドウが表示されます。

コミュニティ名を編集するには、次を行います。

- a. [受理されたコミュニティ名] リストでコミュニティ名を選択して、[編集] をクリックします。

[SNMP サービス設定] ウィンドウが表示されます。

- b. [コミュニティ名] ボックスでコミュニティ名を編集してから、[OK] をクリックします。
[SNMP サービスプロパティ] ウィンドウが表示されます。
6. [OK] をクリックして、変更を保存します。


SNMP トラップを管理ステーションに送信するためのシステム設定

Server Administrator は、センサーおよびその他の監視パラメータの状態の変更に応じて、SNMP トラップを生成します。管理ステーションに SNMP トラップを送信するには、Server Administrator が稼動しているシステム上で1つ以上のトラップ先を設定する必要があります。

1. [コンピュータの管理] ウィンドウを開きます。
2. 必要に応じて、同ウィンドウの [コンピュータの管理] アイコンを展開します。
3. [サービスとアプリケーション] アイコンを展開して、[サービス] をクリックします。
4. サービスのリストを下にスクロールして [SNMP サービス] を見つけ、[SNMP サービス] を右クリックしてから、[プロパティ] をクリックします。
[SNMP サービスプロパティ] ウィンドウが表示されます。
5. [トラップ] タブをクリックしてトラップのコミュニティを追加するか、トラップコミュニティのトラップ送信先を追加します。
 - a. トラップのコミュニティを追加するには、**コミュニティ名** ボックスにコミュニティ名を入力し、**コミュニティ名** ボックスの横にある **リストに追加** をクリックします。
 - b. トラップコミュニティのトラップ送信先を追加するには、**コミュニティ名** ドロップダウンボックスからコミュニティ名を選択して、**トラップ送信先** ボックスの下の **追加** をクリックします。
SNMP サービス設定 ウィンドウが表示されます。
 - c. [ホスト名]、[IP または IPX アドレスボックス] 内で、トラップ送信先を入力し、**追加** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
6. **OK** をクリックして、変更を保存します。

対応 Red Hat Enterprise Linux 環境のシステムで SNMP エージェントを設定する

Server Administrator は、**net-snmp** SNMP エージェントに提供される SNMP サービスを使用します。コミュニティ名を変更し、管理ステーションにトラップを送信するように SNMP エージェントを設定することができます。OpenManage Essentials などの管理アプリケーションと適切に対話できるよう SNMP エージェントを設定するには、次の項の手順を実行します。

 **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

SNMP エージェントのアクセスコントロールの設定

Server Administrator によって実装されている管理情報ベース (MIB) ブランチは、オブジェクト識別子 (OID) 1.3.6.1.4.1.674 で識別されます。Server Administrator を実行しているシステムを管理するには、管理アプリケーションがこの MIB ツリーのブランチへのアクセス権を確保している必要があります。

Red Hat Enterprise Linux および VMware ESXi オペレーティングシステムの場合、デフォルトの SNMP エージェント設定では、MIB ツリーの MIB-II システムブランチ (1.3.6.1.2.1.1 の OID で識別) にのみ *public* コミュニティへの読み取り専用アクセスが与えられます。この設定では、管理アプリケーションを使用して、Server Administrator や MIB-II システムブランチ外の他のシステム管理情報を取得したり変更したりすることはできません。

Server Administrator SNMP エージェントのインストールアクション

Server Administrator がインストール中にデフォルトの SNMP 設定を検知した場合、SNMP エージェント設定を変更して、パブリックコミュニティの MIB ツリー全体で読み取り専用アクセスを提供しようとしています。Server Administrator は、次の手順で SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmp/snmpd.conf` を変更します。

- 存在しない場合は、次の行を追加することにより、MIB ツリー全体のビューを作成します。view all included
- デフォルトのアクセス行を変更すると、パブリックコミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセスのみが付与されます。Server Administrator は次の行を探します。access notConfigGroup "" any noauth exact systemview none none

- Server Administrator が上記の行を見つけた場合は、次の行に変更します。`access notConfigGroup "" any noauth exact all none none`

メモ: Server Administrator が確実に SNMP エージェント設定を変更し、システム管理データに正しくアクセスできるようにするには、Server Administrator のインストール後にその他の SNMP エージェント設定を変更することをお勧めします。

Server Administrator SNMP は、SNMP 多重化 (SMUX) プロトコルを使って SNMP エージェントと通信します。Server Administrator SNMP が SNMP エージェントと接続すると、SNMP エージェントにオブジェクト識別子を送信して、自身を SMUX ピアと識別します。オブジェクト識別子は SNMP エージェントとして設定する必要があるため、存在しない場合は、インストール中に Server Administrator は SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmp/snmpd.conf` に次のラインを追加します。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP のコミュニティ名を設定すると、どのシステムが SNMP を介してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名は、管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得できるように、Server Administrator を実行しているシステムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行するシステムから、管理情報を取得するために使用される SNMP コミュニティ名を変更するには、以下の手順を行います。

1. SNMP エージェントの構成ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を開きます。
2. `com2sec publicsec default public` または `com2sec notConfigUser default public.` という行を探します。

メモ: IPv6 の場合は、`com2sec6 notConfigUser default public` という行を探します。また、ファイルにテキスト `agentaddress udp6:161` を追加します。
3. この行を編集し、`public` を新しい SNMP コミュニティ名に置き換えます。編集後、新しい行は、`com2sec publicsec default community_name` または `com2sec notConfigUser default community_name.` のようになります。
4. SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd .` と入力して SNMP エージェントを再起動します。

SNMP トラップを管理ステーションに送信するためのシステム設定

Server Administrator は、センサーおよびその他の監視パラメータのステータス変更に対して、SNMP トラップを生成します。管理ステーションに SNMP トラップを送信するには、Server Administrator を実行しているシステム上で 1 つ、または複数のトラップ先を設定する必要があります。

Server Administrator を実行しているシステムで管理ステーションにトラップを送信するように設定するには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して次のステップを実行します。

1. `trapsink IP_address community_name` 行をファイルに追加します。ここで、`IP_address` は管理ステーションの IP アドレスで、`community_name` は SNMP コミュニティ名です。
2. SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd` と入力して SNMP エージェントを再起動します。

対応 SUSE Linux Enterprise Server が実行されるシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、`net-snmp` エージェントに提供される SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定して、リモートホストから SNMP へのアクセスの有効化、コミュニティ名の変更、Set 操作の有効化、管理ステーションへのトラップ送信ができます。OpenManage Essentials などの管理アプリケーションと適切に対話できるよう SNMP エージェントを設定するには、次の項の手順を実行します。

メモ: SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Server Administrator SNMP インストールアクション

Server Administrator SNMP は、SMUX プロトコルを使用して SNMP エージェントと通信します。Server Administrator SNMP が SNMP エージェントと接続すると、SNMP エージェントにオブジェクト識別子を送信して、自身を SMUX ピアと識別します。このオブジェクト識別子は SNMP エージェントで設定される必要があるため、インストール時に存在しない場合、Server Administrator は SNMP エージェント設定ファイルに `/etc/snmp/snmpd.conf` という行を追加します。

リモートホストからの SNMP アクセスを有効にする

SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムのデフォルトの SNMP エージェント設定では、public コミュニティに対して、ローカルホストからのみ、MIB ツリー全体への読み取り専用アクセス権が与えられます。Server Administrator システムを正しく検知し、管理するために、この設定では他のホストで実行される OpenManage Essentials などの SNMP 管理アプリケーションが許可されていません。インストール中、Server Administrator がこの設定を検知すると、メッセージをオペレーティングシステムのログファイル `/var/log/messages` に記録し、SNMP アクセスがローカルホストに制限されていることを示します。リモートホストから SNMP 管理アプリケーションを使用してシステムを管理する場合は、リモートホストからの SNMP アクセスを有効にするように SNMP エージェントを設定する必要があります。

メモ: セキュリティ上の理由から、可能であれば、SNMP アクセスは、特定のリモートホストに制限することをお勧めします。

特定のリモートホストから Server Administrator を実行中のシステムへの SNMP アクセスを有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集し、次のステップを実行してください。

1. `rocommunity public 127.0.0.1` という行を探します。
2. この行を編集またはコピーして、`127.0.0.1` の部分をリモートホストの IP アドレスに書き換えます。編集後、新しい行は、`rocommunity public IP_address` のようになります。

メモ: 各リモートホストに対し `rocommunity` 指令を追加することにより、複数の特定リモートホストからの SNMP アクセスを有効にできます。
3. SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd` と入力して SNMP エージェントを再起動します。

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP のコミュニティ名を設定すると、どの管理ステーションが SNMP を介してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名は、管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得できるように、Server Administrator を実行しているシステムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行するシステムから、管理情報を取得するために使用されるデフォルトの SNMP コミュニティ名を変更するには、以下の手順を行います。

1. SNMP エージェントの構成ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を開きます。
2. `rocommunity public 127.0.0.1.` という行を探します。
3. `public` を新しい SNMP コミュニティ名に置き換えてこの行を編集します。編集後、新しい行は、`rocommunity community_name 127.0.0.1.` のようになります。
4. SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd` と入力して SNMP エージェントを再起動します。

対応 Ubuntu Server が実行されるシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、`net-snmp` エージェントに提供される SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定して、リモートホストからの SNMP アクセスを有効にし、コミュニティ名を変更し、管理ステーションにトラップを送信することができます。OpenManage Essentials などの管理アプリケーションと適切に対話できるよう SNMP エージェントを設定するには、次の項の手順を実行します。

メモ: SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Server Administrator SNMP インストールアクション

Server Administrator SNMP は、SMUX プロトコルを使用して SNMP エージェントと通信します。Server Administrator SNMP が SNMP エージェントと接続すると、SNMP エージェントにオブジェクト識別子を送信して、自身を SMUX ピアと識別します。SMUX をサポートするには、オブジェクト識別子を SNMP エージェントで設定する必要があります。Server Administrator が SMUX プロトコルで機能するには、下のステップに従って、SNMP エージェント設定ファイルを有効にする必要があります。

- SNMP エージェントの構成ファイル、`./etc/default/snmpd` を開きます。
- 設定ファイルで使用可能なデフォルトのオプションは、`SNMPDOPTS='-Lsd -Lf /dev/null -u snmp -g snmp -I -smux,mteTrigger,mteTriggerConf -p /run/snmpd.pid'` です
- 上記のデフォルト設定では SMUX モジュールは無効にされます。

- snmpd が SMUX をサポートするには、設定を次のように変更します。SNMPDOPTS='-Lsd -Lf /dev/null -u snmp -g snmp -p /run/snmpd.pid'

SNMP エージェント設定ファイル `./etc/snmp/snmpd.conf` に追加します

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

- SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd` を使用して SNMP エージェントを再起動します。

SNMP コミュニティ名の変更


SNMP のコミュニティ名を設定すると、どの管理ステーションが SNMP を介してシステムを管理できるかが決まります。管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名は、管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得できるように、Server Administrator を実行しているシステムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行するシステムから、管理情報を取得するために使用されるデフォルトの SNMP コミュニティ名を変更するには、以下の手順を行います。

1. SNMP エージェントの構成ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を開きます。
2. `rocommunity public 127.0.0.1.` という行を探します。
3. `public` を新しい SNMP コミュニティ名に置き換えてこの行を編集します。編集後、新しい行は、`rocommunity community_name 127.0.0.1.` のようになります。
4. SNMP 設定の変更を有効にするには、`systemctl restart snmpd` と入力して SNMP エージェントを再起動します。

対応 VMware ESXi 6.X オペレーティングシステムが実行されるシステムにおける SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、VMware ESXi 6.X の SNMP トラップをサポートします。スタンドアロンライセンスのみがある場合は、VMware ESXi オペレーティングシステムでの SNMP 設定が失敗します。必要な SNMP サポートがないため、Server Administrator は VMware ESXi 6.X での SNMP Get および Set 操作をサポートしません。管理ステーションに SNMP トラップを送信するように VMware ESXi 6.X を実行しているシステムを設定するには、VMware vSphere コマンドラインインタフェース (CLI) が使用されません。

 **メモ:** VMware vSphere の CLI 使用方法については、[vmware.com/support](https://www.vmware.com/support) を参照してください。

SNMP トラップを管理ステーションに送信するためのシステム設定


Server Administrator は、センサーおよびその他の監視パラメータのステータス変更に対して、SNMP トラップを生成します。管理ステーションに SNMP トラップを送信するには、Server Administrator を実行しているシステム上で 1 つ、または複数のトラップ先を設定する必要があります。

管理ステーションにトラップを送信するように Server Administrator を実行するお使いの ESXi システムを設定するには、次の手順を実行します。

1. VMware vSphere CLI をインストールします。
2. VMware vSphere CLI をインストールしたシステム上で、コマンドプロンプトを開きます。
3. VMware vSphere CLI がインストールされたディレクトリを変更します。Linux のデフォルトロケーションは `/usr/bin` です。Windows のデフォルトロケーションは `C:\Program Files\VMware\VMware vSphere CLI\bin` です。
4. 次のコマンドを実行します:
`vicfg-snmp.pl --server <server> --username <username> --password <password> -c <community> -t <hostname> @162/<community>`

ここで、`<server>` は ESXi システムのホスト名または IP アドレス、`<username>` は ESXi システム上のユーザー、`<community>` は SNMP コミュニティ名、`<hostname>` は管理ステーションのホスト名または IP アドレスを指します。

 **メモ:** `.pl` の拡張子は、Linux では必要ありません。

 **メモ:** ユーザー名とパスワードを指定しないと、入力を求めるプロンプトが表示されます。

SNMP のトラップ設定は、サービスを再起動する必要なく、直ちに反映されます。

対応 Red Hat Enterprise オペレーティングシステムおよび SUSE Linux Enterprise Server を実行するシステムでのファイアウォール設定

Red Hat Enterprise Linux/SUSE Linux のインストール中にファイアウォールセキュリティを有効にする場合は、すべての外付けのネットワークインタフェース上の SNMP ポートはデフォルトで閉じられます。OpenManage Essentials などの SNMP 管理アプリケーションが Server Administrator を検出して情報を取得できるようにするには、少なくとも 1 つの外付けのネットワークインタフェースで SNMP ポートが開いている必要があります。Server Administrator で、どの外付けのネットワークインタフェースでもファイアウォールで SNMP ポートが開いていないことが検出された場合、Server Administrator は警告メッセージを表示し、システムログにメッセージを記録します。

SNMP ポートは、ファイアウォールを無効にし、ファイアウォールですべての外付けのネットワークインタフェースを開くか、またはファイアウォールで少なくとも 1 つの外付けのネットワークインタフェースの SNMP ポートを開くことで開くことができます。この処置は、Server Administrator を起動する前または後に実行することができます。

これまでに説明した方法のいずれかを使用して Red Hat Enterprise Linux で SNMP ポートを開くには、次の手順を実行します。

1. Red Hat Enterprise Linux のコマンドプロンプトで、`setup` と入力し、`<Enter>` を押して、テキストモードセットアップユーティリティを起動します。

メモ: このコマンドは、オペレーティングシステムでデフォルトのインストールを実行した場合にのみ使用できます。

ツールの選択 メニューが表示されます。

2. 下矢印を使用して [ファイアウォールの設定] を選択し、`<Enter>` を押します。
[ファイアウォールの設定] 画面が表示されます。
3. `<Tab>` を押し、[セキュリティレベル] を選択してスペースバーを押し、設定するセキュリティレベルを選択します。選択された [セキュリティレベル] は、アスタリスクで示されます。

メモ: ファイアウォールのセキュリティレベルに関する詳細については、`<F1>` を押します。デフォルトの SNMP ポート番号は 161 です。X Window System グラフィカルユーザインタフェースを使用している場合、`<F1>` を押しても新しいバージョンの Red Hat Enterprise Linux でのファイアウォールのセキュリティレベルに関する情報が表示されない場合があります。

- a. ファイアウォールを無効にするには、[ファイアウォールなし] または [無効] を選択して手順 7 に進みます。
 - b. ネットワークインタフェース全体または SNMP ポートを開くには、[高、中、] または [有効] を選択して、手順 4 に進みます。
4. `<Tab>` を押して カスタマイズ へ移動し、`<Enter>` を押します。
[ファイアウォールの設定 - カスタマイズ] 画面が表示されます。
 5. ネットワークインタフェース全体を開くかすべてのネットワークインタフェースで SNMP ポートのみを開くかを選択します。
 - a. ネットワークインタフェース全体を開くには `<Tab>` を押して信頼できるデバイスのいずれかに移動し、スペースバーを押します。デバイス名の左にあるボックスにアスタリスクがある場合は、インタフェース全体が開いていることを示します。
 - b. すべてのネットワークインタフェースで SNMP ポートを開くには、`<Tab>` キーを押して その他のポート に移動して、`snmp:udp` と入力します。
 6. `<Tab>` を押し、**OK** を選択して、`<Enter>` を押します
[ファイアウォールの設定] 画面が表示されます。
 7. `<Tab>` を押し、**OK** を選択して、`<Enter>` を押します
ツールの選択 メニューが表示されます。
 8. `<Tab>` を押して **終了** を選択し、`<Enter>` を押します。

ファイアウォール設定

SUSE Linux Enterprise Server で SNMP ポートを開くには、次の操作を実行します。

1. コンソールで次のコマンドを実行して `SuSEfirewall2` を設定します：`a.# yast2 firewall`
2. 矢印キーを使用して、[許可サービス] に移動します。
3. `<Alt><d>` を押して、[追加の許可ポート] ダイアログボックスを開きます。
4. `<Alt><T>` を押して、カーソルを **TCP ポート** テキストボックスに移動します。
5. テキストボックスに **snmp** と入力します。
6. `<Alt><O>` `<Alt><N>` を押して、次の画面に進みます。
7. `<Alt><A>` を押して、変更を受け入れ、適用します。

Server Administrator の使用

Server Administrator セッションを開始するには、デスクトップの **Server Administrator** アイコンをダブルクリックします。

Server Administrator ログイン 画面が表示されます。Server Administrator のデフォルトポートは 1311 ですが、このポートは必要に応じて変更できます。システムプリファランスのセットアップ手順については、「[Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定](#)」を参照してください。

トピック：

- ログインおよびログアウト
- Server Administrator ホームページ
- オンラインヘルプの使用
- プリファランスホームページの使い方
- Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方

ログインおよびログアウト

Server Administrator は次のログインタイプを提供します。

- Server Administrator ローカルシステムログイン
- Server Administrator 管理下システムログイン — デスクトップアイコンを使用
- Server Administrator 管理システムログイン — ウェブブラウザを使用した場合
- Central Web Server ログイン

Server Administrator ローカルシステムログイン

Server Administrator ローカルシステムログインは、ローカルシステム上に Server Instrumentation および Server Administrator Web Server コンポーネントをインストールした場合にのみ、利用可能です。

メモ: Server Administrator ローカルシステムログインは XenServer 6.5 を実行しているサーバーでは使用できません。

ローカルシステムで Server Administrator にログインするには、次の手順を行います。

1. System Management の **ログイン** ウィンドウの該当するフィールドに、あらかじめ割り当てられた **ユーザー名** および **パスワード** を入力します。

定義されたドメインから Server Administrator にアクセスするには、正しいドメイン 名も指定する必要があります。

2. [**Active Directory ログイン**] チェック ボックスを選択し、Microsoft Active Directory を使用してログインします。「[Active Directory ログインの使用](#)」を参照してください。
3. **送信** をクリックします。

Server Administrator セッションを終了するには、それぞれの **Server Administrator** ホームページ右上の角にある **ログアウト** をクリックします。

メモ: CLI を使用してシステム上の Active Directory を設定する方法に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『*Management Station Software インストールガイド*』を参照してください。

Server Administrator 管理下システムログイン — デスクトップアイコンを使用

このログインは、Server Administrator Web Server コンポーネントがシステムにインストールされている場合にのみ使用できます。Server Administrator にログインしてリモートシステムを管理するには、次の手順を実行します。

1. デスクトップにある [Server Administrator] アイコンをダブルクリックします。

2. 管理下システムの IP アドレス、システム名、または完全修飾ドメイン名 (FQDN) をタイプします。

メモ: システム名または FQDN を入力した場合、Server Administrator Web Server ホストがシステム名または FQDN を管理下システムの IP アドレスに変換します。管理下システムのポート番号を、ホスト名 : ポート番号、または IP アドレス : ポート番号フォーマットで入力して接続することもできます。

3. イン트라ネット接続を使用している場合、[証明書の警告を無視する] を選択します。

4. **Active Directory ログイン** を選択して、Microsoft Active Directory 認証を使用してログインします。Active Directory ソフトウェアがネットワークへのアクセスを制御するために使用されていない場合、[Active Directory ログイン] を選択しないでください。「[Active Directory ログインの使用](#)」を参照してください。

5. **送信** をクリックします。

Server Administrator 管理システムログイン — ウェブブラウザを使用した場合

メモ: Server Administrator にログインするには、事前に割り当てられたユーザー権限が必要です。新しいユーザーを設定する方法については、「[設定と管理](#)」を参照してください。

1. ウェブブラウザを開きます。

2. アドレスフィールドに、次のいずれかを入力します。

- `https://hostname:1311` は管理ノードシステムに割り当てられた名前、1311 はデフォルトのポート番号を表します。
- `https://IP address:1311` の IP address は管理下システムの IP アドレスで、1311 はデフォルトのポート番号を表します。

メモ: アドレスフィールドには必ず `https://` (`http://` ではない) と入力してください。

3. <Enter>を押します。

Central Web Server ログイン

このログインは、Server Administrator Web Server コンポーネントがシステムにインストールされている場合にのみ使用できます。このログインを使用して、Server Administrator Central Web Server を管理します。

1. デスクトップにある [Server Administrator] アイコンをダブルクリックします。リモートログインページが表示されます。

注意: デフォルトでは、[証明書の警告を無視] チェックボックスが有効になっています。このオプションは慎重に使用してください。信頼できるイントラネット環境でのみ使用することをお勧めします。

2. 画面の右上角の [Web サーバーの管理] リンクをクリックします。

3. [ユーザー名、パスワード] および [ドメイン名] (定義されたドメインから Server Administrator にアクセスしている場合) を入力し、[送信] をクリックします。

4. [Active Directory ログイン] を選択し、Microsoft Active Directory を使用してログインします。「[Active Directory ログインの使用](#)」を参照してください。

5. [送信] をクリックします。

Server Administrator セッションを終了するには、[グローバルナビゲーションバー](#)で [ログアウト] をクリックします。

メモ: Mozilla Firefox または Microsoft Internet Explorer のいずれかを使用して Server Administrator を起動すると、セキュリティ証明書に関する問題を示す中程度の警告ページに表示される場合があります。システムのセキュリティを確保するには、新しい X.509 証明書を生成するか既存の X.509 証明書を再使用する、または証明書チェーンを認証機関 (CA) からインポートすることをお勧めします。証明書に関するそのようなメッセージを表示しないようにするには、使用する証明書が信頼できる CA からのものである必要があります。X.509 証明書管理の詳細に関しては、「[X.509 証明書管理](#)」を参照してください。

メモ: システムセキュリティを確保するため、認証局 (CA) から証明書チェーンをインポートすることが推奨されます。詳細に関しては、VMware マニュアルを参照してください。

メモ: 管理下システムの認証局が有効であるにもかかわらず、Server Administrator Web サーバーが信頼できない証明書であるとのエラーをレポートしてくる場合、`certutil.exe` ファイルを使用すると管理下システムの CA を信頼できるものにすることができます。この .exe ファイルにアクセスする方法の詳細に関しては、オペレーティングシステムのマニュアル

を参照してください。対応 Windows オペレーティングシステムの場合、証明書スナップインオプションを使って証明書をインポートすることもできます。

Active Directory ログインの使用

Active Directory で Dell 拡張スキーマソリューションを使用してログインする場合は、[Active Directory ログイン] チェックボックスを選択します。

このソリューションは、Server Administrator へのアクセスを提供し、お使いの Active Directory ソフトウェアに対して Server Administrator ユーザーと権限を追加/制御することを可能にします。詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator インストールガイド』の「Microsoft Active Directory の使用」を参照してください。

シングルサインオン

Windows オペレーティングシステムのシングルサインオンオプションでは、デスクトップの **Server Administrator** アイコンをクリックすることにより、ログイン済みのすべてのユーザーがログインページを介さずに Server Administrator Web アプリケーションにアクセスできます。

① メモ: シングルサインオンの詳細については、support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q258063 でサポート技術情報の記事を参照してください。

ローカルのマシンへのアクセスには、そのマシンに合った権限のあるアカウント（ユーザー、パワーユーザー、管理者）が必要です。他のユーザーは、Microsoft Active Directory に対して認証されます。Microsoft Active Directory へのシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動する場合は、次のパラメーターを渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application=[plugin name]
```

ここで、plugin name = omsa, ita,、などとなります。

たとえば、次のとおりです。

```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa
```

ローカルマシンのユーザーアカウントに対してシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動するには、次のパラメータも渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application=[plugin name]&locallogin=true
```

ここで、plugin name = omsa, ita, などとなります。

たとえば、次のとおりです。

```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa&locallogin=true
```

また、Server Administrator は他の製品（Dell EMC OpenManage Essentials など）でもログインページを介さずに直接 Server Administrator Web ページにアクセスできるように機能が拡張されています（すでにログインしており、適切な権限を持っている場合）。

対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼動するシステム上のセキュリティ設定

対応の Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼動するリモート管理システムから Server Administrator にログインするには、ブラウザのセキュリティオプションを設定する必要があります。

ブラウザのセキュリティ設定によっては、Server Administrator が使用するクライアント側のスクリプトを実行できない場合があります。クライアント側のスクリプトを使用できるようにするには、リモート管理下システムで次の手順を実行します。

① メモ: クライアント側のスクリプトを使用できるようにブラウザを設定していない場合、Server Administrator にログインするときに空白の画面が表示される場合があります。この場合は、エラーメッセージが表示され、ブラウザを設定するように指示されます。

Internet Explorer でクライアントサイドスクリプトの使用を有効にする

1. お使いのウェブブラウザで、[ツール] > [インターネットオプション] > [セキュリティ] の順にクリックします。

- [インターネットオプション] ウィンドウが表示されます。
2. [セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください] の下で、[信頼済みサイト] をクリックしてから [サイト] をクリックします。
 3. [この Web サイトをゾーンに追加する] フィールドで、リモート管理下システムにアクセスするのに使用するウェブアドレスをペーストします。
 4. [追加] をクリックします。
 5. ブラウザのアドレスバーからリモート管理下システムにアクセスするために使用するウェブアドレスをコピーし、この **Web サイトをゾーンに追加する** フィールドに貼り付けます。
 6. [このゾーンのセキュリティのレベル] で、[カスタム] レベルをクリックします。
 7. [OK] をクリックし新しい設定を保存します。
 8. ブラウザを閉じて Server Administrator にログインします。

Internet Explorer での Server Administrator のシングルサインオンの有効化


Server Administrator へのシングルサインオンをユーザー認証情報のプロンプトなしに許可するには、以下の手順を行います。

1. お使いのウェブブラウザで、[ツール] > [インターネットオプション] > [セキュリティ] の順にクリックします。
2. [表示するゾーンの選択またはセキュリティ設定の変更] で、[信頼済みサイト] をクリックし、[サイト] をクリックします。
3. [このウェブサイトをゾーンに追加する] フィールドに、リモート管理下システムにアクセスする際に使用するウェブアドレスを貼り付けます。
4. [追加] をクリックします。
5. [カスタムレベル] をクリックします。
6. **ユーザー認証** で、**現在のユーザー名とパスワードで自動ログイン** を選択します。
7. [OK] をクリックし新しい設定を保存します。
8. ブラウザを閉じて Server Administrator にログインします。

Mozilla Firefox でのクライアント側スクリプト使用の有効化

1. ブラウザを開きます。
2. [編集] > [プリファレンス] の順にクリックします。
3. [詳細設定] > [スクリプトおよびプラグイン] をクリックします。
4. Javascript を有効にする でナビゲータが選択されていることを確認します。[次の JavaScript を有効にする] で、[ナビゲータ] のチェックボックスにチェックを入れます。
5. [OK] をクリックし新しい設定を保存します。
6. ブラウザを閉じます。
7. Server Administrator にログインします。

Server Administrator ホームページ

 **メモ:** Server Administrator の使用中は、Web ブラウザのツールバーボタン(戻る や 更新 など)を使用しないでください。Server Administrator ナビゲーションツールのみを使用します。

いくつか例外がありますが、Server Administrator のホームページには3つの主な領域があります。

- グローバルナビゲーションバー は一般的なサービスへのリンクを提供します。
- システムツリーは、ユーザーのアクセス権限に基づいて、可視のシステムオブジェクトをすべて表示します。
- 処置ウィンドウには、ユーザーのアクセス権限に基づいて、選択システムツリーに対する利用可能な管理処置が表示されます。処置ウィンドウには3つの機能領域があります。
 - 処置タブは、ユーザーのアクセス権限に基づいて、選択オブジェクトに利用できるプライマリ処置または処置カテゴリを表示します。
 - 処置タブは、ユーザーのアクセス特権に基づいて、処置タブで使用可能な二次オプションのサブカテゴリに分かれています。
 - データ領域は、ユーザーのアクセス権限に基づいて、選択システムツリーオブジェクト、処置タブそしてサブタブの情報を表示します。

また、**Server Administrator** ホームページにログインすると、システムモデル、システムに割り当てられた名前、および現在のユーザーのユーザー名とユーザー権限がウィンドウの右上隅に表示されます。

次の表は、Server Administrator がインストールされている場合の **GUI** フィールド名と該当システムの一覧です。

表 7. GUI フィールド名と該当システム

GUI フィールド名	該当システム
モジュラーエンクロージャ	モジュラーシステム
サーバーモジュール	モジュラーシステム
メインシステム	モジュラーシステム
システム	非モジュラーシステム
メインシステムシャーシ	非モジュラーシステム

次の図は、非モジュラーシステムに管理者特権でログインしたユーザー用の、サンプル Server Administrator ホームページのレイアウトを示します。

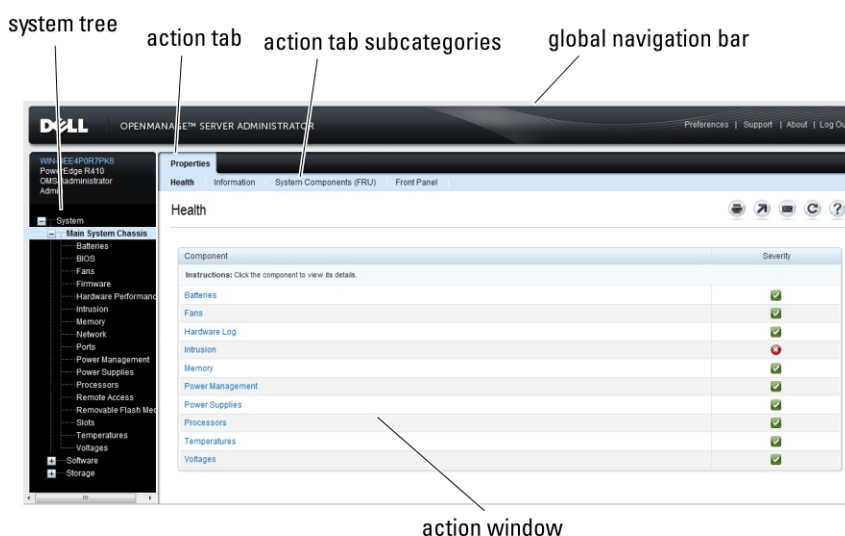


図 1. Server Administrator ホームページの例 — 非モジュラーシステム

次の図は、モジュラーシステムに管理者特権でログインしたユーザー用の、サンプル Server Administrator ホームページのレイアウトを示します。

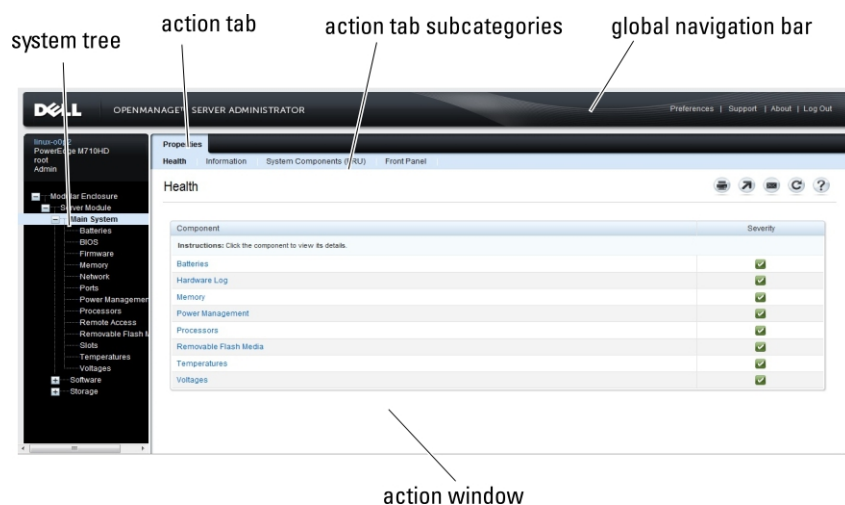


図 2. Server Administrator ホームページの例 — モジュラーシステム

システムツリーのオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトに対応する処置ウィンドウが表示されます。処置ウィンドウで、主要カテゴリを選択するには処置タブを、詳細な情報や処置にアクセスするには処置タブのサブカテゴリをクリックします。

処置ウィンドウのデータ領域には、システムログからシステムプローブゲージのステータスインジケータにおよぶ情報が表示されます。処置ウィンドウのデータ領域の下線付きのアイテムは、さらに細かい機能があることを示しています。下線付きのアイテムをクリックすると、処理ウィンドウに詳細レベルのあるデータ領域が作成されます。たとえば、**プロパティ** 処置タブの **正常稼働** サブカテゴリにある **メインシステムシャーシ/メインシステム** をクリックすると、メインシステムシャーシ/メインシステムオブジェクトで、正常稼働ステータスのモニタリングが行われているすべてのコンポーネントの正常稼働ステータスが表示されます。

メモ: 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、処置タブ、データ領域機能の大半の表示には、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。また、**シャットダウン** タブのシャットダウン機能のような重要システム機能にアクセスできるのは、管理者権限でログインしているユーザーのみです。

モジュラーおよび非モジュラーシステムにおける Server Administrator ユーザーインターフェースの違い

以下の表では、モジュラーおよび非モジュラーシステムにおいて利用できる Server Administrator 機能を記載しています。

表 8. モジュラーおよび非モジュラーシステムにおける Server Administrator ユーザーインターフェースの違い

機能	モジュラーシステム	非モジュラーシステム
バッテリー		
電源装置		
ファン		
ハードウェアパフォーマンス		
イントルージョン		
メモリ		
ネットワーク		
ポート		
電源管理		
プロセッサ		
リモートアクセス		
リムーバブルフラッシュメディア		
スロット		
温度		
電圧		
モジュラーエンクロージャ (シャーシ情報および CMC 情報)		



グローバルナビゲーションバー

グローバルナビゲーションバーとそのリンクは、プログラム内のすべてのユーザーレベルで使用可能です。

- [プリファランス] をクリックして [プリファランス] ホームページを開きます。「[プリファランスホームページの使い方](#)」を参照してください。
- Dell EMC サポートウェブサイトへ接続するには、[サポート] をクリックします。
- [バージョン情報] をクリックすると、Server Administrator のバージョン情報と著作権情報が表示されます。
- [ログアウト] をクリックすると、現在の Server Administrator プログラムセッションが終了します。

システムツリー

システムツリーは Server Administrator ホームページの左側に表示され、システムの表示可能なコンポーネントを一覧表示します。システムコンポーネントはコンポーネントの種類によって分類されています。[モジュラーエンクロージャ] > [システム/サーバモジュール] のメインオブジェクトを展開したときに表示されるシステム/サーバモジュールコンポーネントの主要カテゴリは、**メインシステムシャーシ/メインシステム**、**ソフトウェア**、および **ストレージ** です。

ツリーを展開するには、オブジェクトの左側にあるプラス記号 () をクリックするか、オブジェクトをダブルクリックします。マイナス記号 () になっている場合、そこは展開済みのエントリでそれ以上展開できないことを示します。

処置ウィンドウ

システムツリーのアイテムをクリックすると、コンポーネントまたはオブジェクトについての詳細がウィンドウのデータ領域に表示されます。処置タブをクリックすることにより、利用可能なユーザーオプションのすべてが、サブカテゴリのリストとして表示されます。

システム/モジュールツリーのオブジェクトをクリックすると、そのコンポーネントの処置ウィンドウが開き、使用可能な処置タブが表示されます。データ領域には、選択したオブジェクトの最初の処置タブの事前選択サブカテゴリがデフォルト表示されます。

事前選択サブカテゴリは通常最初のオプションです。たとえば、**メインシステムシャーシ/メインシステム** オブジェクトは処置ウィンドウを開き、そのデータ領域には **プロパティ** 処置タブと **正常性** サブカテゴリが表示されます。

データ領域

データ領域はホームページ右側、処置タブの下にあります。データ領域では、タスクを実行しシステムコンポーネントの詳細を表示します。ウィンドウ内の表示内容は、システムのツリーオブジェクトおよび現在選択されている処置タブによって異なります。例えば、システムツリーから **BIOS** を選択している場合は、デフォルトで **プロパティ** タブが選択されており、システム BIOS のバージョン情報がデータ領域に表示されます。処置ウィンドウのデータ領域には、状態インジケータ、タスクボタン、下線項目、ゲーティングインジケータなどの多数の共通機能が表示されます。

Server Administrator ユーザーインターフェースでは、<mm/dd/yyyy> の形式で日付を表示します。

システムまたはサーバモジュールコンポーネントステータスインジケータ

コンポーネント名の横のアイコンはそのコンポーネントの状態を表します (ページの最終更新時点)。

表 9. システムまたはサーバモジュールコンポーネントステータスインジケータ









説明	アイコン
	コンポーネントは正常 (通常通り) です。
	コンポーネントには、警告 (非重要) 状態が含まれています。警告状態は、プローブまたはその他のモニタリングツールが、特定の最小および最大値に入るコンポーネントの値を検知する場合に発生します。警告状態が発生すると迅速に対応する必要があります。
	コンポーネントには、障害または重要な状態が含まれています。警告状態は、プローブまたはその他のモニタリングツールが、特定の最小および最大値に入るコンポーネントの値を検知する場合に発生します。重要状態が発生すると直ちに対応する必要があります。

表 9. システムまたはサーバモジュールコンポーネントステータスインジケータ (続き)

説明	アイコン
	コンポーネントの正常性が不明です。

タスクボタン

Server Administrator ホームページから開いたほとんどのウィンドウには、少なくとも次の 5 つのタスクボタンが含まれます: **印刷**、**エクスポート**、**電子メール**、**ヘルプ** および **更新**。他のタスクボタンは、特定の Server Administrator ウィンドウに含まれます。たとえば、[ログ] ウィンドウには、**名前をつけて保存** および **ログのクリア** タスクボタンが含まれます。

- 印刷 () をクリックすると、開いているウィンドウのコピーをデフォルトプリンタに印刷します。
 - エクスポート () をクリックすると、開いているウィンドウの各データフィールドの値が表示されたテキストファイルが生成されます。エクスポートファイルは指定したロケーションに保存されます。データフィールドを区切る区切り文字のカスタマイズに関しては、「ユーザーの設定」および「システムプリファランス」を参照してください。
 - 電子メール () をクリックすると、指定した電子メール受信者宛での電子メールメッセージが作成されます。電子メールサーバおよびデフォルトの電子メール受信者を設定する方法については、「ユーザーの設定」および「システムプリファランス」を参照してください。
 - 更新 () をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域のシステムコンポーネント状態の情報が再ロードされます。
 - 名前をつけて保存 をクリックすると、処置ウィンドウの HTML ファイルが .zip ファイルに保存されます。
 - ログのクリア をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域に表示されたログからすべてのイベントが消去されます。
 - ヘルプ () をクリックすると、表示中の特定のウィンドウやタスクボタンの詳細が表示されます。
- メモ:** エクスポート、電子メール、および 名前をつけて保存 ボタンは、パワーユーザーまたは管理者権限でログインしているユーザーのみに表示されます。ログのクリア ボタンは管理者権限を持つユーザーのみに表示されます。

下線付きアイテム

処置ウィンドウのデータ領域の下線付きアイテムをクリックすると、そのアイテムの詳細が表示されます。

ゲージインジケータ

温度プローブ、ファンプローブ、電圧プローブはそれぞれゲージインジケータによって示されます。例えば、次の図はシステムの CPU のファンプローブの読み取り値の例を示しています。

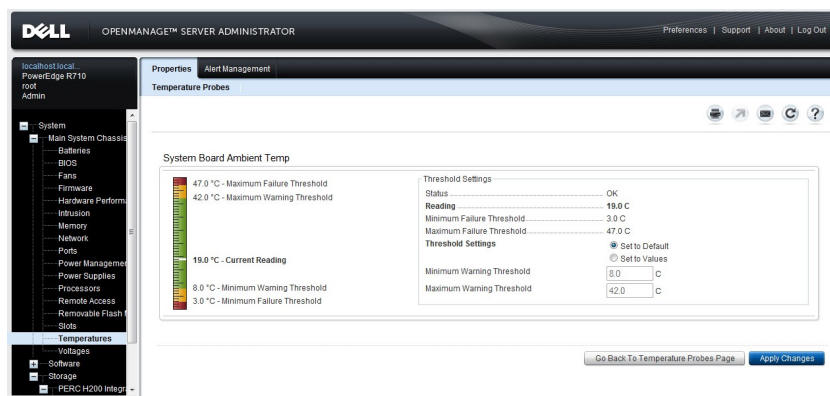


図 3. ゲージインジケータ

オンラインヘルプの使用

Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。**ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウについて詳しい情報が掲載されたヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスの各要素を実行するのに必要な、特定の動作について説明するように設計されています。Server Administrator が検出するシステムのソフトウェアとハードウェアのグループおよび、ユーザー権限レベルに応じて表示可能なすべてのウィンドウにオンラインヘルプが用意されています。

プリファランスホームページの使い方

プリファランス ホームページの左ペイン (システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている) には、システムツリーウィンドウの使用可能な設定オプションがすべて表示されます。

使用可能なプリファランスホームページオプションは次の通りです。

- 一般設定
- サーバーシステム管理者

リモートシステムの管理のためにログインした後、**プリファランス** タブを表示できます。このタブは、Server Administrator Web サーバー、またはローカルシステムを管理するためにログインした際にも表示されます。

Server Administrator ホームページ同様、**プリファランス** ホームページには3つの主な領域があります。

- グローバルナビゲーションバー は一般的なサービスへのリンクを提供します。
 - **ホーム** をクリックすると、Server Administrator のホームページに戻ります。
- **プリファランス** ホームページの左ペイン (システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている) には、管理下システムまたは Server Administrator ウェブサーバーのプリファランスカテゴリが表示されます。
- 処置ウィンドウには、管理下システムまたは Server Administrator ウェブサーバー用に利用可能な、設定およびプリファランスが表示されます。

管理下システムのプリファランス

リモートシステムにログインするとき、プリファランスホームページにはデフォルトで **プリファランス** タブ下の **ノード設定** ウィンドウが表示されます。

Server Administrator オブジェクトをクリックして、ユーザーまたはパワーユーザー権限を持つユーザーへのアクセスを有効または無効にします。ユーザーのグループ権限によって、Server Administrator オブジェクト処置ウィンドウに **プリファランス** タブが表示されない場合があります。

プリファランス タブでは、次の操作が可能です。

- ユーザーまたはパワーユーザー特権を持つユーザーへのアクセスを有効または無効にします。
- アラートメッセージのフォーマットを選択します。
 - ① **メモ:** 考えられるフォーマットは、[従来] と [拡張] のいずれかです。デフォルトのフォーマットは [従来] で、レガシーフォーマットです。
- 自動バックアップを有効にして、ESM ログエントリをクリアします。

デフォルトでは、この機能は無効です。この機能を有効にすることによって、ESM ログの自動バックアップを作成することができます。バックアップが作成された後、Server Administrator の ESM ログと iDRAC/BMC の SEL エントリがクリアされます。このプロセスは、ログが満杯になるたびに繰り返されます。

バックアップは次の場所に保存されます。

Windows : <Install_root>\omsa\log\omsellog.xml

Linux : <Install_root>/var/log/openmanage/omsellog.xml

ESXi : /etc/cim/dell/srvadmin/var/log/openmanage/omsellog.xml

- ① **メモ:** この機能は、PowerEdge システムの YX0X 世代および YX1X 世代のみで使用できます。iDRAC は、YX2X 世代以降の PowerEdge サーバーに自動バックアップと SEL ログのクリア機能を提供します。
- オペレーティングシステムのメインイベントログにログインされたログエントリの重大度を選択またはクリアします。考えられる値は次のとおりです。[ログ重要]、[ログ警告] または [ログ情報]
 - ① **メモ:** デフォルトでは、すべてのオプションが選択されています。OS ログフィルタ機能は、OS ログフィルタコンポーネントがインストールされている場合のみ使用できます。

- [有効にする] を選択して、すべての監視対象外の ESM センサーイベントをログに記録します。この機能を有効にすると、Server Administrator はすべての監視対象外の SNMP トラップ、OS ログおよびアラートを生成します。
- Server Administrator 上で実行される操作を追跡するには、[有効にする] を選択します。パス `oma\log` でログファイルを参照できます。最大サイズである 50 MB を超えると、ログのバックアップが作成され、同じ場所で新しいファイルに置き換えられます。
- 製品使用フィードバックに関するユーザーの操作をログに記録するには、[[有効]] を選択します。ファイルの最大サイズは 50 MB です。
- コマンド ログ サイズを設定します。最大サイズは 4 MB です。
- SNMP の設定

Server Administrator ウェブサーバーのプリファレンス

Server Administrator ウェブサーバーを管理するためにログインするとき、[プリファレンス] ホームページには、デフォルトでプリファレンスにユーザープリファレンスウィンドウが表示されます。

管理下システムから Server Administrator ウェブサーバーの分離により、ウェブサーバーの管理リンクを使用して Server Administrator ウェブサーバーにログインすると、次のオプションが表示されます。

- ウェブサーバープリファレンス
- X.509 証明書管理

これらの機能へのアクセスの詳細に関しては、「[Server Administrator サービスの概要](#)」を参照してください。

Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定

ユーザーとシステムのプリファランスの設定

プリファランス ホームページから、ユーザーとウェブサーバーのプリファランスを設定します。

① メモ: ユーザーまたはシステムのプリファランスをリセットするには、システム管理者権限でログインする必要があります。


ユーザープリファランスをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. グローバルナビゲーションバーの [プリファランス] をクリックします。

プリファランス ホームページが表示されます。

2. [一般設定] をクリックします。
3. 事前に選択されている電子メールの受取人を追加するには、指定するサービス連絡先の電子メールアドレスを **宛先:** フィールドに入力し、**適用** をクリックします。

①

メモ: 任意のウィンドウで **電子メール** () をクリックし、そのウィンドウの HTML ファイルが添付された電子メールを、指定したアドレスに送信します。

①

メモ: Server Administrator サービスまたは Server Administrator がインストールされているシステムを再起動すると、Web Server の URL は失われます。 **omconfig** コマンドを使用して、再度 URL を入力します。

Web サーバーのプリファランス

次の手順を実行して、Web サーバーのプリファランスを設定します。

1. グローバルナビゲーションバーの [プリファランス] をクリックします。

[プリファランス] ホームページが表示されます。

2. [一般設定] をクリックします。
3. [サーバープリファランス] ウィンドウで、必要に応じてオプションを設定します。
 - **セッションのタイムアウト (分)** 機能は、Server Administrator セッションがアクティブな状態を維持する時間の制限を設定するために使用できます。 **有効にする** を選択すると、指定された時間 (分) の間ユーザー介入がない場合に、Server Administrator のタイムアウトを許可します。セッションがタイムアウトしたユーザーが続行するには再度ログオンする必

必要があります。**無効にする**を選択すると、Server Administrator の [セッションのタイムアウト(分)] 機能が無効になります。

- **HTTPS ポート** フィールドは、Server Administrator のポートを指定します。Server Administrator のデフォルトセキュアポートは 1311 です。
 - ① **メモ:** ポート番号を無効または使用中のポート番号に変更すると、他のアプリケーションまたはブラウザが管理下システムの Server Administrator にアクセスできなくなる場合があります。デフォルトポートのリストについては、dell.com/openmanagemanuals で入手できる『**Server Administrator インストールガイド**』を参照してください。
- **IP アドレスのバインド先** フィールドは、セッション開始時に Server Administrator がバインドする管理下システムの IP アドレスを指定します。[すべて] を選択して、システムに該当するすべての IP アドレスにバインドします。特定の IP アドレスにバインドするには **特定** を選択します。
 - ① **メモ:** バインド先の IP アドレス 値を [すべて] 以外の値に変更すると、他のアプリケーションまたはブラウザが管理下システムの Server Administrator にアクセスできなくなる場合があります。
- **宛先** フィールドは、デフォルトでアップデートについての電子メールを送信する電子メールアドレスを指定します。複数の電子メールアドレスを設定し、コンマで区切ることができます。
- **SMTP サーバ名 (または IP アドレス)** フィールドおよび **SMTP サーバの DNS サフィックス** フィールドは、会社または組織の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) およびドメイン名サーバ (DNS) のサフィックスを指定します。Server Administrator の電子メール送信を有効にするには、該当するフィールドに会社または組織の SMTP サーバの IP アドレスと DNS サフィックスを入力します。
 - ① **メモ:** セキュリティ上の理由から、SMTP サーバから外部アカウントへの電子メール送信を許可していない会社や組織もあります。
- **コマンドログサイズ** フィールドは、コマンドログファイルの最大ファイルサイズを MB 単位で指定します。
 - ① **メモ:** Server Administrator Web Server を管理するためにログインした場合にのみ、このフィールドが表示されます。
- **サポートリンク** フィールドでは、管理下システムのサポートを提供する事業者の URL を指定します。
- **カスタム区切り文字** フィールドは、**エクスポート** ボタンを使用して作成されるファイルのデータフィールドを区切るために使用される文字を指定します。;文字がデフォルトの区切り文字です。この他のオプションは、!、@、#、\$、%、^、*、~、?、|です。
- [SSL 暗号] フィールドは、Web サーバーとブラウザ間のセキュアな接続を指定します。設定時には、Web サーバーをサポートする暗号を選択してください。無効な暗号スイートが設定されると、接続サービスは起動しません。デフォルトでは、以下が暗号スイートの値です。

```
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384
,TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384,
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256
TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256,
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384,
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384,
TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA,
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256,
TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA,TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA,
TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256,
TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA,TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
```

① **メモ:** 誤った暗号値が設定されており、接続サービスの開始が失敗する場合は、CLI コマンドプロンプトを使用する、または手動で有効な暗号を設定し、接続サービスを再度開始してください。

① **メモ:** セキュリティ上の理由で、Server Administrator 9.1 へのアップグレードでは既存の Web サーバー暗号設定は保持されません。

- [SSL プロトコル] フィールドを使用すると、Web サーバーから一覧表示されている SSL プロトコルを設定して、HTTPS 接続を確立することができます。可能な値は、TLSv1.1、TLSv1.2、および (TLSv1.1, TLSv1.2) です。デフォルトでは、SSL プロトコルの値は (TLSv1.1, TLSv1.2) に設定されています。変更は Web サーバーの再起動後に有効になります。
 - ① **メモ:** プロトコルがデフォルト構成でサポートされていない場合、ブラウザ設定から SSL プロトコルを有効にします。
- **キー署名アルゴリズム (自己署名の証明書向け)** — 対応する署名アルゴリズムを選択できます。SHA 512 または SHA 256 を選択する場合、お使いのオペレーティングシステム/ブラウザがこのアルゴリズムをサポートしていることを確認してください。必要なオペレーティングシステム/ブラウザのサポートがない状態でこれらのオプションのいずれかを選択す

ると、Server Administrator に「cannot display the webpage」というエラーが表示されます。このフィールドは、Server Administrator の自動生成自己署名証明書限定です。新しい証明書を Server Administrator にインポートまたは生成した場合、ドロップダウン リストがグレーアウトされます。

- **管理下システム ログイン** - 管理下システム ログインのプリファランスを設定してリモート ホストへのログインを管理できます。

メモ: バージョン 9.4.0 の Server Administrator より、[管理下システム ログイン] はデフォルトで無効の状態になっています。[管理下システム ログイン] が無効になっている場合、リモート管理下ノードに接続するには、プリファランス ページから [管理下システム ログイン] のプリファランスを有効にします。

- **Java ランタイム環境** — 次のオプションのいずれかを選択できます:

- **バンドル JRE** — System Administrator に付属する JRE を使用できます。

- **システム JRE** - システムにインストールされている JRE の使用を有効にします。ドロップダウンリストから必要なバージョンを選択します。

メモ: Server Administrator では、Java Runtime Environment (JRE) のメジャーバージョンへのアップグレードを推奨しません。セキュリティパッチとマイナーバージョンの JRE に制限されています。詳細については、Server Administrator のリリース ノート (Server Administrator アプリケーションに同梱) または dell.com/openmanagemanuals を参照してください。

メモ: Server Administrator 実行中のシステムに JRE が存在しない場合、Server Administrator に付属の JRE が使用されません。

メモ: SUSE Linux Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング システムを実行しているシステムでは、OpenJDK に新しいセキュリティ アップデートがある場合は常に、サポートされている最新の OpenJDK 11.0.x JRE バイナリーをベンダーの公式リポジトリからインストールする必要があります。Microsoft Windows Server オペレーティング システムで実行されているシステムの場合は、Red Hat のカスタマー ポータルにログインして、サポートされている最新の Windows OpenJDK 11.0.x JRE インストーラーをダウンロードする必要があります。アクセス先は、<https://access.redhat.com/products/openjdk> です。

- 4. **サーバープリファレンス** ウィンドウのオプション設定が完了したら、**適用** をクリックします。

メモ: 変更を適用するには、Server Administrator Web Server を再起動する必要があります。

X.509 証明書管理

メモ: 証明書を管理するには、システム管理者権限でログインする必要があります。

リモートシステムの身元を確認し、そのリモートシステムと交換する情報を他人が閲覧したり変更したりできないことを確実にするには、ウェブ証明書が必要です。システムのセキュリティを確保するには、以下を行うことが推奨されています。

- 新しい X.509 証明書の生成、既存の X.509 証明書の再使用、または認証局 (CA) からの証明書チェーンのインポートを行う。
- Server Administrator がインストールされているすべてのシステムがそれぞれ固有のホスト名を持つ。

[プリファランス] ホームページを使って X.509 証明書を管理するには、**一般設定** をクリックし、**ウェブサーバー** タブをクリックしてから **X.509 証明書** をクリックします。

使用できるオプションは次のとおりです。

- **新規証明書の生成** — Server Administrator を実行するサーバーとブラウザ間の SSL 通信のための、新しい自己署名証明書を生成します。


メモ: 自己署名証明書の使用時は、この証明書がオペレーティングシステムが信頼する証明局 (CA) によって署名されていないことから、多くのウェブブラウザが **信頼できません** という警告を表示します。一部のセキュアブラウザ設定によって、自己署名 SSL 証明書がブロックされることもあります。Server Administrator ウェブ GUI では、そのようなセキュアブラウザのために CA 署名済み証明書を必要とします。

- **証明書メンテナンス** — 信頼済み SSL ウェブ証明書の作成を自動化するために CA が必要とする、ホストに関する証明書情報のすべてが含まれる証明書署名要求 (CSR) を生成することを可能にします。必要な CSR ファイルは、証明書署名要求 (CSR) ページの手順から、または CSR ページのテキストボックス内にあるテキスト全体をコピーし、CA 送信フォームにペーストすることによって取得できます。テキストは Base64 エンコードフォーマットである必要があります。

メモ: また、証明書情報を表示して、使用されている証明書を他のウェブサービスによるインポートが可能な Base-64 エンコードフォーマットにエクスポートするオプションもあります。

- **証明書チェーンのインポート** — 信頼できる CA によって署名された証明書チェーン (PKCS#7 フォーマット) をインポートできます。証明書は、DER または Base64 エンコードフォーマットが可能です。

- **PKCS12 キーストアのインポート** — Server Administrator Web Server で使用されていたプライベートキーと証明書の代替となる PKCS#12 はキーストアをインポートすることができます。PKCS#12 は、Web Server のためのプライベートキーと証明書を含むパブリックキーストアです。Server Administrator は SSL 証明書とプライベートキーを保存するために Java KeyStore(JKS) 形式を使用します。PKCS#12 キーストアを Server Administrator にインポートすると、キーストアエントリが削除され、Server Administrator JKS にプライベートキーと証明書エントリをインポートします。

 **メモ:** 無効な PKCS ファイルを選択、または誤ったパスワードを入力すると、エラーメッセージが表示されます。

SSL サーバー証明書

Server Administrator Web サーバは、ネットワーク上での暗号化データの転送に業界標準の SSL セキュリティプロトコルを使用するよう設定されています。非対称暗号テクノロジーを基盤とする SSL は、ネットワーク上の傍受を防止するため、クライアントとサーバ間での認証済み、かつ暗号化された通信を提供するために広く受け入れられています。

SSL 対応システムは、次のタスクを実行できます。

- SSL 対応クライアントに自らを認証する
- 2つのシステムに暗号化接続の確立を許可する

暗号化処理は高度なデータ保護機能を提供します。Server Administrator は、北米のインターネットブラウザで一般的に利用されている最も安全な方式を使用します。

Server Administrator Web サーバは、デフォルトで自己署名固有 SSL デジタル証明書を持っています。デフォルト SSL 証明書は、周知の認証局 (CA) によって署名された証明書に置き換えることができます。認証局とは、情報テクノロジー業界において、信頼のおける審査、識別、およびその他重要なセキュリティ基準の高い水準を満たしていることで認められている事業体です。CA の例としては Thawte や VeriSign などがあります。CA 署名証明書を取得するプロセスを開始するには、Server Administrator Web インタフェースを使用して、会社の情報で証明書署名要求 (CSR) を生成します。次に、生成された CSR を VeriSign または Thawte などの CA に提出します。CA は、ルート CA または中間 CA とします。CA 署名 SSL 証明書を受信したら、これを Server Administrator にアップロードします。


各 Server Administrator が管理ステーションによって信頼されるようにするには、その Server Administrator の SSL 証明書を管理ステーションの証明書ストアに配置する必要があります。SSL 証明書が管理ステーションにインストールされたら、サポートされるブラウザが、証明書警告を受けることなく Server Administrator にアクセスできるようになります。

Server Administrator Web Server の処置タブ

Server Administrator Web Server を管理するためにログインすると、次の処置タブが表示されます。

- プロパティ
- シャットダウン
- ログ
- アラート管理
- セッション管理

ウェブサーバーのアップグレード

 **注意:** ウェブサーバのアップグレード後は、工場出荷時設定へのリセットができなくなります。工場出荷時設定にリセットするには、Server Administrator を再インストールしてください。

Apache Tomcat ウェブサーバは、**omwsupdateutility** を使用して、Server Administrator 機能に影響を与えることなく、必要に応じていつでもアップグレードすることができます。このユーティリティでは、マイナーバージョンのウェブサーバへのアップグレードは可能ですが、メジャーバージョンへのアップグレードはサポートしていません。例えば、バージョン Ax から Ay へのアップグレードはサポートされますが、Ax から B.x または By へのアップグレードはサポートされません。また、マイナーバージョンに限定されますが、このユーティリティを使用してウェブサーバのバージョンを以前のバージョンに戻すこともできます。このユーティリティは、ウェブサーバのインストール時に次のデフォルトの場所に保存されます。

- Windows オペレーティングシステムを実行しているシステム : C:\Program Files\Dell\SysMgt\omsa\wsupdate
- Linux オペレーティングシステムを実行しているシステム : /opt/dell/srvadmin/lib64/openmanage/wsupdate

必要なバージョンの Tomcat ウェブサーバパッケージをダウンロードし、コマンドプロンプトからユーティリティを実行できます。Tomcat ウェブサーバコア配布パッケージを tomcat.apache.org からダウンロードしてください。配布パッケージは .zip または .tar.gz ファイルである必要があり、Windows インストーララッパーパッケージはサポートされていません。

ウェブサーバをアップデートするには、[wsupdate] フォルダに移動して、次のコマンドを実行します。

- Windows の場合 : omwsupdate.bat [SysMgt folder path] [apache-tomcat.zip/.tar.gz file path]

- Linux の場合 : `omwsupdate.sh [srvadmin folder path] [apache-tomcat.zip/.tar.gz file path]`

デフォルトの [SysMgt] フォルダパスは `C:\Program Files\Dell\SysMgt` であり、[srvadmin] フォルダのパスは `/opt/dell/srvadmin` です。

Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方

Server Administrator コマンドラインインタフェース (CLI) を使うと、ユーザーはモニタしているシステムのオペレーティングシステムのコマンドプロンプトから必要なシステム管理タスクを実行できます。

CLI を使うと、タスクがきちんと定義されているユーザーが、システムに関する情報を迅速に取得できます。CLI を使うと、たとえば管理者がコマンドを使って、特定の時刻に実行するバッチプログラムまたはスクリプトを書くことができます。これらのプログラムを実行すると、ファン RPM のような関心のあるコンポーネントに関するレポートをキャプチャできます。さらにスクリプトを書くことにより、CLI を使ってシステム利用率が高い期間中のデータをキャプチャし、システム利用率が低い期間の同じ測定と比較できます。コマンドの結果は、ファイルに保存して後に分析できます。レポートにより、管理者は、使用パターンを調整し、新しいシステムリソースの購入を正当化し、問題のコンポーネントの正常性に焦点を当てるのに役立つ情報を入手することができます。

CLI の機能と使用における完全手順は、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator コマンドラインインタフェースガイド』を参照してください。

Server Administrator サービス

Server Administrator Instrumentation Service はシステムの正常性をモニタし、業界標準のシステム管理エージェントによって収集された詳細な障害およびパフォーマンス情報への迅速なアクセスを提供します。レポートおよび表示機能は、お使いのシステムを含む各シャーシの全体的な正常性状態の取得を可能にします。サブシステムレベルでは、システムの主要箇所における電圧、温度、ファン RPM、およびメモリ機能を表示できます。概要ビューでは、お使いのシステムに関連する所有コスト (COO) すべての詳細な説明を表示することができます。BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステム、およびすべてのインストール済み Systems Management Software のバージョン情報も取得することができます。

また、システム管理者は Instrumentation Service を使用して次の重要タスクを実行することができます。

- 特定の重要なコンポーネントについて最小および最大値を指定します。この値はしきい値と呼ばれ、そのコンポーネントの警告イベントが発生する値を決定します (最小および最大エラー値はシステム製造元によって指定されます)。
- 警告またはエラーイベントが発生したときのシステムの応答を指定します。ユーザーは、警告およびエラーイベントの通知に対してシステムが取る処置を設定できます。または、無休のモニタリングを使っているユーザーは、処置を指定せずに、イベントに対する最良の処置について担当者の判断に任せることもできます。
- システム名、システムのプライマリユーザー電話番号、減価償却方法、システムがリースか所有かなど、システムにユーザー指定できる値をすべて作成します。

メモ: SNMP の設定に関する詳細は、「[対応 Windows オペレーティングシステムを実行するシステムに対する SNMP エージェントの設定](#)」を参照してください。

トピック：

- [システムの管理](#)
- [システムまたはサーバモジュールツリーオブジェクトの管理](#)
- [Server Administrator ホームページシステムツリーオブジェクト](#)
- [プリファランスホームページ設定オプションの管理](#)

システムの管理


Server Administrator ホームページでは、デフォルトでシステムツリービューにシステムオブジェクトが表示されます。デフォルトで、**システム** オブジェクトは **プロパティ** タブの下に **正常性** コンポーネントが表示されます。

デフォルトでは、[プリファレンス] ホームページは [ノード設定] を開きます。

プリファレンス ホームページから、ユーザーとパワーユーザーの特権を持つユーザーへのアクセスの制限、SNMP パスワードの設定、ユーザーと DSM SA 接続サービスの設定ができます。

メモ: Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。[ヘルプ]



() をクリックすると、表示中の特定ウィンドウについての詳しい情報を含む、独立したヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスの全局面を実行するのに必要な、特定の処置をガイドするよう設計されています。オンラインヘルプは、Server Administrator がお使いのシステムで検知するソフトウェアとハードウェアグループおよびユーザー権限レベルに基づいて、表示できるすべてのウィンドウで利用できます。

メモ: 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、処置タブ、およびデータ領域機能の多くを表示するには、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。また、管理者権限でログインしたユーザーのみが、**シャットダウン** タブに含まれるシャットダウン機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

システムまたはサーバモジュールツリーオブジェクトの管理

Server Administrator のシステムまたはサーバモジュールツリーには、管理下システムおよびユーザーのアクセス権限で Server Administrator が検出するソフトウェアとハードウェアのグループに基づいて、表示可能なシステムオブジェクトがすべて表示されます。システムコンポーネントはコンポーネントタイプによって分類されます。メインオブジェクト - **モジュラーエンクロージャ - システム / サーバモジュール** - を展開すると表示されるシステムコンポーネントの主要なカテゴリには、**メインシステムシャーシ / メインシステム**、**ソフトウェア**、および **ストレージ** があります。

Storage Management Service がインストールされると、システムに実装されているコントローラやストレージに応じて、ストレージツリーのオブジェクトが展開され、様々なオブジェクトが表示されます。

Storage Management Service コンポーネントの詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

Server Administrator ホームページシステムツリーオブジェクト

本項では、Server Administrator ホームページのシステムツリーにあるオブジェクトについての情報を説明します。ESXi オペレーティングシステムの制限により、このリリースでは Server Administrator の以前のバージョンで使用できた機能の一部を使用できません。

ESXi でサポートされていない機能は次のとおりです。

- FCoE 機能および iSoE 機能情報
- アラート管理 - アラート処置
- ネットワークインタフェース — 管理ステータス、DMA、インターネットプロトコル (IP) アドレス、
- ネットワークインタフェース — 操作ステータス
- リモートシャットダウン — 先にオペレーティングシステムをシャットダウンしてからシステムをパワーサイクル
- 詳細情報 — **詳細** タブに表示されない Server Administrator コンポーネントの詳細
- 役割マップ

メモ: Server Administrator は、日付を常に <mm/dd/yyyy> 形式で表示します。

メモ: 設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、処置タブ、またはデータ領域機能の多くを表示するには、管理者またはパワーユーザー権限が必要です。さらに、管理者権限でログインしているユーザーのみが、**シャットダウン** タブに含まれるシャットダウン機能のような、重要なシステム機能にアクセスできます。

モジュラーエンクロージャ

メモ: Server Administrator では、モジュラーエンクロージャとは、システムツリーに個別のサーバモジュールとして表示される 1 台、または複数台のモジュラーシステムで構成されるシステムを指します。スタンドアロンサーバモジュールと同様に、モジュラーエンクロージャにはすべてのシステムの必須コンポーネントが装備されています。唯一の違いは、より大型のコンテナ内に少なくとも 2 つのサーバモジュール用のスロットがあり、それぞれがサーバモジュールと同様に完全なシステムであることです。

モジュラーシステムのシャーシ情報と Chassis Management Controller (CMC) 情報を表示するには、[モジュラーエンクロージャ] オブジェクトをクリックします。

- **タブ: プロパティ**
- **サブタブ: 情報**

プロパティ タブでは、次の操作が可能です。

- 監視下のモジュラーシステムのシャーシ情報を表示する。
- 監視下のモジュラーシステムの Chassis Management Controller (CMC) に関する詳細情報を表示する。

Chassis Management Controller にアクセスして使用する

Server Administrator ホームページから Chassis Management Controller **ログイン** ウィンドウを起動するには次の操作を行います。

1. [モジュラーエンクロージャ] オブジェクトをクリックします。
2. **CMC 情報** タブ、次に **CMC ウェブインタフェースの起動** をクリックします。CMC **ログイン** ウィンドウが表示されます。

CMC に接続すると、モジュラーエンクロージャを監視および管理することができます。

システムまたはサーバモジュールプロパティ

システムまたはサーバモジュール オブジェクトには、**メインシステムシャーシ / メインシステム**、**ソフトウェア**、および **ストレージ** の3つの主要システムコンポーネントグループがあります。Server Administrator ホームページでは、デフォルトでシステムツリービューに **システム** オブジェクトが表示されます。ほとんどの管理機能は、**システム / サーバモジュール** オブジェクトの処置ウィンドウから管理できます。**システム / サーバモジュール** オブジェクトの処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**ライセンス管理**、**プロパティ**、**シャットダウン**、**ログ**、**アラート管理**、**セッション管理** などのタブがあります。

[ライセンス]

[サブタブ: 情報 | ライセンス]

ライセンスのサブタブでは、次の操作が可能です。

- iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) を使用して、ハードウェアのデジタルライセンスを、インポート、エクスポート、削除、交換できるようにプリファランスを設定。
- 使用中のデバイスの詳細表示。詳細には、ライセンスの状態、ライセンスの説明、資格 ID、ライセンスの有効期限があります。

メモ: Server Administrator は、YX2X 世代の PowerEdge システムより、ライセンス機能をサポートします。この機能は、iDRAC の必要最低バージョン、iDRAC 1.30.30 がインストールされている場合にのみ使用できます。

メモ: この機能は、iDRAC の必要最低バージョンがインストールされている場合にのみ使用できます。

[プロパティ]

サブタブ: 正常性 | 概要 | 資産情報 | 自動回復

プロパティ タブでは、次の操作が可能です。

- **メインシステムシャーシ / メインシステム** オブジェクトおよび **ストレージ** オブジェクト内のハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントの現在の正常性アラート状態を表示します。
- 監視されているシステムのすべてのコンポーネントの詳細な概要情報を表示します。
- 監視されているシステムの資産情報を表示および設定します。
- 監視中のシステムの自動システム回復 (オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマー) 処置の表示と設定を行います。

メモ: オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが BIOS で有効になっている場合、自動システム回復 オプションが使えない場合があります。自動回復オプションを設定するには、必ずオペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーを無効にしてください。

メモ: 応答していないシステムをウォッチドッグが認識している場合は、設定したタイムアウト時間 (n 秒) に従って自動システム回復処置が実行されないことがあります。処置の実行時間は n-h+1 ~ n+1 秒で、n は設定したタイムアウト時間、h はハートビート間隔です。ハートビート間隔の値は n ≤ 30 の場合は 7 秒、n > 30 の場合は 15 秒です。

メモ: システム DRAM Bank_1 で修復できないメモリエVENTが発生した場合は、ウォッチドッグタイマー機能の動作を保証できません。修復できないメモリエVENTがこの場所で発生すると、この領域の BIOS コードレジデントが破損する場合があります。ウォッチドッグ機能は BIOS への呼び出しを使ってシャットダウンまたは再起動の動作を実行するため、この機能は正常に作動しない場合があります。この問題が発生した場合は、手動でシステムを再起動する必要があります。ウォッチドッグタイマーの最大設定値は 720 秒です。

シャットダウン

サブタブ: リモートシャットダウン | サーマルシャットダウン | Web Server のシャットダウン

シャットダウン タブでは、次の操作が可能です。




- オペレーティングシステムのシャットダウンとリモートシャットダウンのオプションを設定します。

- 温度センサーが警告またはエラー値を返したときにシステムをシャットダウンするサーマルシャットダウンの重大度レベルを設定します。
 - ① **メモ:** サーマルシャットダウンは、センサーがレポートする温度が温度しきい値を超えた場合のみ発生します。センサーがレポートする温度が温度しきい値を下回っても、サーマルシャットダウンは発生しません。
- DSM SA 接続サービス (Web サーバ) をシャットダウンします。
 - ① **メモ:** DSM SA 接続サービスがシャットダウンしても、Server Administrator はコマンドラインインタフェース (CLI) を通じて使用することができます。CLI 機能の実行に、DSM SA 接続サービスは必要ありません。

ログ

サブタブ: ハードウェア | アラート | コマンド

[ログ] タブでは、次の操作が可能です。

- お使いのシステムのハードウェアコンポーネントに関連したすべてのイベントを一覧表示する、組み込みシステム管理 (ESM) ログまたはシステムイベントログ (SEL) の表示。ログ ファイルの容量が 80 パーセントに達すると、ログ名の隣にある状態インジケーター アイコンが正常状態 () から非重要状態 () に変わります。PowerEdge YX1X システムでは、ログ ファイルの容量が 100 パーセントに達すると、ログ名の隣にある状態インジケーター アイコンが重要状態 () に変わります。
 - ① **メモ:** [自動バックアップおよび ESM ログエントリのクリア] 機能を有効にすると、ESM ログの自動バックアップを作成することができます。この機能は、YX0X 世代および YX1X 世代の PowerEdge サーバーのみで使用できます。iDRAC は、YX2X 世代以降の PowerEdge システムに自動バックアップと SEL ログのクリア機能を提供します。前述の場所で使用できるのはバックアップ XML ファイルの最新バージョンのみです。
- センサーやその他の監視するパラメータの変更に対する応答として、Server Administrator Instrumentation Service が生成したすべてのイベント一覧のアラートログを表示します。
 - ① **メモ:** 各アラート イベント ID とその説明、重大度レベル、および原因については、dell.com/openmanagemanuals にある『Server Administrator メッセージ リファレンス ガイド』を参照してください。
- **Server Administrator** ホームページまたはコマンドラインインタフェースから実行した、各コマンド一覧が入ったコマンドログを表示します。
 - ① **メモ:** ログの表示、印刷、保存、E-メールでの送信方法については、「Server Administrator ログ」を参照してください。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | プラットフォームイベント | SNMP トラップ

[アラート管理] タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行するアラート処置を設定します。
- 現在のプラットフォームイベントフィルタ設定を表示し、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行するプラットフォームイベントフィルタ処置を設定します。送信先の設定 オプションを使って、プラットフォームイベントのアラートが送信される先 (IPv4 または IPv6 アドレス) を選択することもできます。
 - ① **メモ:** Server Administrator は、グラフィカルユーザーインタフェースの IPv6 アドレスのスコープ ID を表示しません。
- インストルメント化されたシステムコンポーネントに対して現行の SNMP トラップを表示して、アラートしきい値レベルを設定します。選択したトラップは、システムが選択した重大度レベルで対応イベントを生成した場合にトリガーされます。
 - **SNMP テストトラップ** は、表示された設定済み宛先リストから選択された宛先にトラップを送信します。テストトラップを送信するには、Server Administrator SNMP コンポーネントがインストールされている必要があります。管理者は、OS SNMP サービス、または設定ファイルで IP アドレス / FQDN を設定して、トラップ宛先のリストを取得するようにしてください。
 - ① **メモ:** この機能は VMware ESXi ではサポートされていません。
 - **SNMP トラップを有効にする** では、チェックボックスとラジオボタンを使用してコンポーネントを設定することができます。ラジオボタンを選択すると該当するチェックボックスの状態が変わり、ラジオボタンの選択を解除すると、同様に該当するチェックボックスの状態が変わります。
 - ① **メモ:** すべての潜在的なシステムコンポーネントセンサーのアラート処置は、お使いのシステムに存在しない場合でも、**アラート処置** ウィンドウにリストされています。お使いのシステムに存在しないシステムコンポーネントセンサーに対してアラート処置を設定しても効果はありません。

メモ: Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、オペレーションシステム上の [詳細システム設定] > [アドバンスリカバリ] オプションを無効にして、Server Administrator 自動システム回復アラートが確実に生成されるようにする必要があります。

セッション管理

サブタブ: セッション

[セッション管理] タブでは、次の操作が可能です。

- 現在 Server Administrator にログインしているユーザーのセッション情報を表示する。
- ユーザーセッションを終了する。
 - メモ:** 管理者権限のあるユーザーのみが [セッション管理] ページを表示したり、ログインしているユーザーのセッションを終了したりできます。

メインシステムシャーシまたはメインシステム

[メインシステムシャーシ] または [メインシステム] オブジェクトをクリックすると、システムの主要なハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントを管理できます。

使用可能なコンポーネントは以下のとおりです。

- ・ バッテリー
- ・ BIOS
- ・ ファン
- ・ ファームウェア
- ・ ハードウェアパフォーマンス
- ・ インترلージョン
- ・ メモリ
- ・ ネットワーク
- ・ ポート
- ・ 電源管理
- ・ 電源装置
- ・ プロセッサ
- ・ リモートアクセス
- ・ リムーバブルフラッシュメディア
- ・ スロット
- ・ 温度
- ・ 電圧

メモ: [電源装置] オプションは PowerEdge 1900 では使用できません。電源装置モニタリングおよび電源モニタリング機能は、複数の冗長、ホットスワップ可能な電源装置が取り付けられているシステムにのみ対応します。これらの機能は、電力管理回路がない永久的に取り付けられた非冗長の電源装置には使用できません。





メインシステムシャーシまたはメインシステムプロパティ

システム / サーバモジュールは、1つのメインシステムシャーシで構成される場合と複数のシャーシで構成される場合があります。メインシステムシャーシ / メインシステムには、システムに不可欠なコンポーネントが含まれます。メインシステムシャーシ / メインシステム オブジェクト処置ウィンドウには、次の項目が含まれます。

プロパティ

サブタブ: 正常性 | 情報 | システム コンポーネント (FRU) | 前面パネル

プロパティ タブでは、次の操作が可能です。

- ハードウェアコンポーネントおよびセンサーの正常性または状態を表示します。リストされた各コンポーネントには、名前の横に **システム / サーバモジュールコンポーネントステータスインジケータ** アイコンがあります。 は、コンポーネントが健全な状態 (正常) であることを示します。 は、コンポーネントが警告状態 (非重要) にあり、迅速な対応を要することを示します。 は、コンポーネントに障害 (重要) があり、即時の対応を要することを示します。 は、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。モニタされるコンポーネントは以下のとおりです。

- バッテリー
- ファン
- ハードウェアログ
- イントルージョン
- ネットワーク
- 電源管理
- 電源装置
- プロセッサ
- 温度
- 電圧

メモ: バッテリーは、YX0X 世代の PowerEdge システムのみでサポートされます。[電源装置] は、PowerEdge 1900 では使用できません。[電源管理] は一部の YX0X 世代の PowerEdge システムでのみサポートされます。[電源装置モニタリング] および [電源モニタリング] 機能は、複数のホットスワップ対応の冗長電源装置が取り付けられているシステムにのみ対応します。これらの機能は、電力管理回路がない永久的に取り付けられた非冗長の電源装置には使用できません。

メモ: QLogic QLE2460 4Gb シングルポート ファイバー チャネル HBA、QLogic QLE2462 4Gb デュアルポート ファイバー チャネル HBA、QLogic QLE2562 デュアルポート FC8 アダプター、または QLogic QLE2560 シングルポート FC8 アダプターのいずれかのカードが YX2X 世代の PowerEdge システムに取り付けられている場合、[[システム コンポーネント (FRU)]] 画面は表示されません。

- ホスト名、iDRAC バージョン、Lifecycle Controller バージョン、シャーシ モデル、シャーシ ロック、シャーシ サービス タグ、エクスプレス サービス コード、シャーシ資産タグなどのメイン システムのシャーシ属性についての情報を表示します。エクスプレスサービスコード (ESC) 属性は、システムのサービスタグを 11 桁の数値のみに変換したものです。Dell EMC テクニカルサポートに電話する際は、この ESC を入力することにより自動的に適切な担当者が応答します。
- システムに設置されているフィールド交換可能装置 (FRU) についての詳細情報を表示します (**システムコンポーネント (FRU)** サブタブ内)。
- 電源ボタンおよび非マスキング中断 (NMI) ボタン (システムにある場合) という、管理下システムの前面パネルのボタンを有効または無効にします。または、管理下システムの LCD セキュリティアクセスレベルを選択します。管理下システムの LCD 情報は、ドロップダウンメニューから選択できます。また、**前面パネル** サブタブからリモート KVM の標示セッションを有効にすることもできます。

バッテリー

[バッテリー] オブジェクトをクリックすると、システムに取り付けられているバッテリーの情報を表示できます。システムの電源がオフのときも、バッテリーは時間および日付を維持します。バッテリーは、システムが効率的に再起動できるよう、システムの BIOS 設定を保存します。バッテリー オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、[プロパティ] タブおよび [アラート管理] タブなどが表示されます。

プロパティ

サブタブ: バッテリー

プロパティ タブでは、システムバッテリーについての現在の読み取り値および状態を表示できます。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示。
- バッテリー警告または重要 / 障害イベント発生時に有効化させるアラートの設定。

BIOS

[BIOS] オブジェクトをクリックして、システムの BIOS の主要機能を管理します。システムの BIOS には、キーボードとビデオアダプタなどのマイクロプロセッサと周辺デバイス間の通信、およびシステムメッセージのようなその他の機能を制御するプログラムが、フラッシュメモリチップセットに保存されています。[BIOS] オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権によっては、次のタブが表示されることがあります。

[プロパティ] および [セットアップ]

[プロパティ]

[サブタブ : 情報]

[プロパティ] タブでは BIOS 情報を表示できます。

[セットアップ]

[サブタブ : BIOS]

i **メモ:** システムの BIOS セットアップタブは、システムでサポートされる BIOS 機能のみを表示します。

[セットアップ] タブでは各 BIOS セットアップオブジェクトの状態を設定できます。

多くの BIOS セットアップ機能の状態を変更できます。これにはシリアルポート、ハードディスクドライブシーケンス、ユーザーアクセス可能 USB ポート、CPU 仮想化テクノロジー、CPU ハイバースレディング、AC 電源リカバリーモード、内蔵 SATA コントローラー、システムプロファイル、コンソールリダイレクション、およびコンソールリダイレクションフェールセーフポーレートなどがありますが、これに限定されません。また、内部 USB デバイス、光学式ドライブコントローラ設定、自動システムリカバリ (ASR) ウォッチドッグタイマー、内蔵ハイパーバイザー、およびマザーボード情報の追加 LAN ネットワークポートも設定できます。さらに、トラステッドプラットフォームモジュール (TPM) およびトラステッド暗号化モジュール (TCM) 設定も表示できます。

特定のシステム構成によっては、その他のセットアップ項目が表示される場合があります。ただし、いくつかの BIOS セットアップオプションは、Server Administrator でアクセスできない BIOS セットアップ画面について表示される可能性があります。

YX2X 世代以降の PowerEdge システムでは、設定可能な BIOS 機能が特定のカテゴリにグループ化されています。カテゴリには、デバッグメニュー、システム情報、メモリ設定、プロセッサ設定、SATA 設定、起動設定、起動オプション設定、1 回限りの起動、ネットワーク設定、内蔵デバイス、スロット無効化、シリアル通信、システムプロファイル設定、システムセキュリティ、およびその他の設定が含まれます。たとえば、**システム BIOS 設定** ページでは、[メモリ設定] リンクをクリックすると、システムメモリに関連する機能が表示されます。設定は、対応するカテゴリに移動して表示または変更することができます。

i **メモ:** 第 13 世代の PowerEdge システムでは、一回限りの起動項目はサポートされていません。

設定可能な BIOS 機能は特定のカテゴリにグループ化されています。カテゴリには、デバッグメニュー、システム情報、メモリ設定、プロセッサ設定、SATA 設定、起動設定、起動オプション設定、ネットワーク設定、内蔵デバイス、スロット無効化、シリアル通信、システムプロファイル設定、システムセキュリティ、およびその他の設定が含まれます。たとえば、**システム BIOS 設定** ページでは、[メモリ設定] リンクをクリックすると、システムメモリに関連する機能が表示されます。設定は、対応するカテゴリに移動して表示または変更することができます。

[システムセキュリティ] ページでは、BIOS セットアップパスワードを設定することができます。セットアップパスワードを設定した場合、BIOS 設定の有効化および変更にはパスワードを入力します。パスワードを入力しなければ、BIOS 設定は読み取り専用モードで表示されます。パスワード設定後は、システムを再起動します。

前回のセッションからの保留値が残っている場合や、帯域外インターフェースから帯域内設定が無効化されている場合は、Server Administrator は BIOS セットアップ設定を許可しません。

i **メモ:** Server Administrator BIOS セットアップ内の NIC 設定情報が、内蔵 NIC について正しくない可能性があります。BIOS セットアップ画面を使って NIC を有効/無効化すると、予期されない結果となる場合があります。内蔵 NIC の設定はすべて、システム起動中に <F2> を押すと表示される実際のシステムセットアップ画面で行うことが推奨されます。

フルパワーサイクル - この新機能を使用すると、サーバ管理者は OpenManage の GUI または CLI を使用して、デバイスをパワーサイクルできます。**フルパワーサイクル** では、管理者が、DC パワーサイクルを実行し、続けて AC パワーサイクルを実行できます。

DC パワーサイクル - サーバを再起動しますが、補助デバイスは中断されません。

AC パワーサイクル - 補助デバイスを再起動し、ユーザーをサーバに接続します。

フルパワーサイクル には、次のデバイスのパワーサイクルが含まれます。


- サーバー
- BMC/iDRAC
- CPLD
- センサー
- LCD

- フィールドで交換可能なパーツ (FRU)
- Titan
- ネットワーク ドーター カード

仮想 AC パワーサイクルの設定

仮想 AC パワーサイクルを設定するには、次の手順に従います。

1. Server Administrator ウィンドウで、[システム] > [メインシステムシャーシ] の順に展開します
2. [BIOS] をクリックします。
[BIOS のプロパティ] ウィンドウが表示されます。
3. [セットアップ] タブをクリックします。
[システム BIOS 設定] ウィンドウが表示されます。
4. [その他の設定] リンクをクリックします。
5. [パワーサイクルリクエスト] の下で、[仮想 AC] を選択します。
6. [適用] をクリックします。

 **メモ:** パワーサイクル設定に正常に変更するには、サーバを再起動します。

ファン


[ファン] オブジェクトをクリックしてシステムファンを管理します。Server Administrator は、ファンの RPM を測定することで各システムファンの状態を監視します。ファンプローブは RPM を Server Administrator Instrumentation Service に報告します。

デバイスツリーからファンを選択すると、Server Administrator ホームページの右側ペインにあるデータエリアに詳細が表示されます。このファンオブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** および **アラート管理** タブがある場合があります。

プロパティ

サブタブ: ファンプローブ

プロパティ タブでは、次の操作が可能です。

- システムのファンプローブの現在の読み取り値を表示して、ファンプローブ警告しきい値の最大値と最小値を設定します。
-  **メモ:** 一部のファンプローブフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC をベースとしたシステムでは編集できません。
- ファンコントロールオプションを選択します。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理 タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、ファンが警告値またはエラー値を返したときに実行するアラート処置を設定します。
- ファンに対するアラートしきい値レベルを設定します。

ファームウェア

[ファームウェア] オブジェクトをクリックしてシステムファームウェアを管理します。ファームウェアは、ROM に書き込まれたプログラムまたはデータから構成されています。ファームウェアはデバイスを起動して実行できます。各コントローラには、コントローラの機能発揮を円滑にするファームウェアが入っています。[ファームウェア] オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブなどが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムのファームウェア情報を表示できます。

ハードウェアパフォーマンス

[ハードウェアパフォーマンス] オブジェクトをクリックすると、システムパフォーマンスの状態と低下の原因が表示されます。
[ハードウェアパフォーマンス] オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて **プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ：情報

プロパティ タブで、システムのパフォーマンス低下の詳細を表示できます。

次の表には、状態の一覧とプローブの原因が示されています。

表 10. 状態の可能値とプローブの原因値

状態値	原因値
劣化	ユーザー設定 不十分な電力容量 不明の原因
正常	該当なし

イントルージョン

[イントルージョン] オブジェクトをクリックして、システムのシャーシ イントルージョンのステータスを管理します。Server Administrator は、システムの主要コンポーネントへの不正アクセスを防止するためのセキュリティ対策として、シャーシ イントルージョンやドライブ ベイのステータスをモニターします。シャーシ イントルージョンは、誰かがシステムのシャーシのカバーを開いているか開いたことを示します。[[イントルージョン] オブジェクト処置] ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて、[**プロパティ**] タブと [**アラート管理**] タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ：イントルージョン

[**プロパティ**] タブには、シャーシ イントルージョン ステータスが表示されます。

アラート管理

サブタブ：アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理 タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、イントルージョン センサーまたはドライブ ベイが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置の設定を行います。
- 現在の SNMP トラップ アラートしきい値を表示し、イントルージョン センサーのアラートしきい値レベルを設定します。選択した重大度レベルでシステムが対応イベントを生成すると、選択したトラップがトリガーされます。

メモリ

システムのメモリー デバイスを管理するには、**メモリー** オブジェクトをクリックします。Server Administrator は、モニター対象システムにある各メモリー モジュールのメモリー デバイスのステータスをモニターします。メモリー デバイスの事前障害検知センサーは、ECC メモリーの修正数をカウントすることによりメモリー モジュールをモニターします。システムが機能をサポートしている場合は、Server Administrator はメモリー冗長性情報もモニターします。[**メモリー** オブジェクト処置] ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて、[**プロパティ**] タブと [**アラート管理**] タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ：メモリー

[**プロパティ**] タブには、メモリー冗長性のステータス、メモリー アレイ属性、メモリー アレイの合計容量、メモリー アレイの詳細情報、メモリー デバイスの詳細情報、メモリー デバイスのステータスが表示されます。メモリー デバイスの詳細情報としては、ステータス、デバイス名、サイズ、タイプ、スピード、ランク、エラーなど、コネクタのメモリー デバイスの詳細情報が表示されます。ランクとは、デュアルインラインメモリーモジュール (DIMM) または不揮発性デュアルインラインメモリーモジュール (NVDIMM) あたり 64 ビットのデータが入っているダイナミック ランダム アクセス メモリー (DRAM) の行です。ランクの可能な値は、single, dual, quad, octal, と hexa です。[**ランク**] には DIMM のランクが表示されるため、サーバーの DIMM の各サービスが容易になります。

- メモ:** スペアバンクメモリーが有効になっているシステムが冗長性喪失状態になっても、どのメモリーモジュールが原因が明らかでない場合があります。交換する DIMM を判断できない場合は、ESM システム ログでスペアメモリーバンク検出口ログエントリーへのスイッチを参照して、障害が発生したメモリーモジュールを見つけてください。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、メモリモジュールが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置の設定を行います。
- 現在の SNMP トラップアラートしきい値を表示し、メモリーモジュールのアラートしきい値レベルを設定します。選択した重大度レベルでシステムが対応イベントを生成すると、選択したトラップがトリガーされます。

ネットワーク

[ネットワーク] オブジェクトをクリックして、システムの NIC を管理します。Server Administrator はシステムにある NIC それぞれの状態をモニタして、リモート接続が切断されないようにします。Server Administrator は NIC の FCoE および iSoE 機能を報告し、NIC チューミングがシステム上ですでに設定済みの場合は、それらの詳細も報告します。複数の物理 NIC を、管理者が IP アドレスを割り当てることができる単一の論理 NIC にチューミングすることができます。チューミングは NIC ベンダーツールを使用して設定でき、これには Broadcom - BACS などがあります。物理 NIC のいずれかに障害が発生しても、IP アドレスが単一の物理 NIC ではなく論理 NIC にバインドされているため、IP アドレスは引き続きアクセス可能となります。チームインタフェースが設定されている場合は、詳しいチームプロパティが表示されます。これらの物理 NIC がチームインタフェースのメンバーである場合、物理 NIC とチームインタフェース間の関係 (またはその逆) も報告されます。

Windows 2008 ハイパーバイザーオペレーティングシステムでは、Server Administrator は仮想マシンに IP を割り当てるために使用される、物理 NIC ポートの IP アドレスを報告しません。

- メモ:** デバイスが検知される順序は、デバイスの物理ポート順と一致するとは限りません。インタフェース名の下にあるハイパーリンクをクリックして、NIC 情報を表示します。

ESXi オペレーティングシステムでは、ネットワークデバイスはグループとして認識されます。例えば、サービスコンソールによって使用される仮想イーサネットインタフェース (vswif)、および ESXi の vmknic デバイスによって使用される仮想ネットワークインタフェースがあります。

- メモ:** Server Administrator は物理ネットワークインタフェースとそのプロパティのインベントリのみをサポートします。Server Administrator は VLAN およびボンディングなどの論理インタフェースのインベントリはサポートしません。

ネットワークオブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権によっては、**プロパティ** タブが表示されることがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、物理 NIC インタフェースとシステムに取り付けられているチームインタフェースについての情報を表示できます。

- メモ:** Server Administrator は IPv6 アドレスセクションにリンクのローカルアドレスに加えて 2 つのアドレスのみを表示します。
- メモ:** 3.10 以前のバージョンのカーネルを使用している Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、チームインタフェース速度は表示されません。

ポート

[ポート] オブジェクトをクリックすると、システムの外部ポートを管理できます。Server Administrator は、システムに存在する各外部ポートの状態を管理します。

- メモ:** ブレードサーバに接続されている CMC USB ポートは Server Administrator によって数えられません。

[ポート] オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブなどが表示されます。

サブタブ: 情報

プロパティ

プロパティ タブでは、システムの内部および外部ポート情報を表示できます。

電源管理

メモ: 電源装置モニタリングおよび電源モニタリング機能は、複数の冗長、ホットスワップ可能な電源装置が取り付けられているシステムにのみ対応します。これらの機能は、電力管理回路がない永久的に取り付けられた非冗長の電源装置には使用できません。

監視

サブタブ: 消費量 | 統計

[消費量] タブでは、システムの電力消費量情報をワットと BTU/hr で表示できます。

BTU/hr=Watt X 3.413 (最も近い整数に切り捨て)

Server Administrator は消費電力とアンペアを監視し、電源の統計情報の詳細を追跡します。

また、システム瞬時的ヘッドルームとシステムピークヘッドルームも表示できます。値は、ワットと BTU/時 (英国の温度単位) の両方で表示されます。電力しきい値はワットと BTU/時 で設定できます。

統計 タブでは、エネルギー消費量、システムピーク電力、システムピークアンペアなどシステムの電力追跡統計値の表示とリセットが可能です。

管理

サブタブ: バジェット | プロファイル

[バジェット] タブでは、システムアイドル電力およびシステム最大潜在電力などの電力インベントリ属性をワットと BTU/時 で表示できます。また、電力バジェットオプションを使って、電力キャップを有効にして、お使いのシステムに電力キャップを設定することもできます。

[プロファイル] タブでは、システムの性能を最大化し、エネルギーを節約するための電源プロファイルを選択できます。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | SNMP トラップ

[アラート処置] タブでは、システム電源ブローブ警告やシステムピーク電力など各種のシステムイベントに対するシステムアラート処置を設定できます。

[SNMP トラップ] タブは、システムの SNMP トラップを設定するために使用します。

一部の電源管理機能は、電力管理バス (PMBus) が有効になっているシステムでしか利用できません。

電源装置

[電源装置] オブジェクトをクリックしてシステムの電源装置を管理します。Server Administrator は、お使いのシステム内にある電源装置のそれぞれが正しく機能するように、電源装置の状態を監視します。

電源装置オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて [プロパティ] タブと [アラート管理] タブが表示されることがあります。

メモ: 電源装置モニタリングおよび電源モニタリング機能は、複数の冗長、ホットスワップ可能な電源装置が取り付けられているシステムにのみ対応します。これらの機能は、電力管理回路がない永久的に取り付けられた非冗長の電源装置には使用できません。

プロパティ

サブタブ: 要素

プロパティ タブでは、次の操作が可能です。

- 電源装置の冗長性属性についての情報を表示します。
- 電源装置のファームウェアバージョン、および最大出力ワット数を含む、個々の電源装置の状態をチェックします。
- 各電源装置要素について、ファームウェアバージョン、定格入力ワット数、および最大出力ワット数などの状態をチェックします。定格入力ワット数属性は、第 11 世代以降の PMBus システムでのみ表示されます。

アラート管理

サブタブ: アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、システム電源が警告値またはエラー値を返したときに実行するアラート処置の設定を行います。

- IPv6 アドレスのプラットフォームイベントアラートの宛先を設定します。
- システム電力ワット数に対して現行の SNMP トラップを表示して、アラートしきい値レベルを設定します。選択したトラップは、システムが選択した重大度レベルで対応イベントを生成した場合にトリガーされます。

メモ: システムのピーク電力トラップは重大度が情報のイベントのみを生成します。

プロセッサ

プロセッサ オブジェクトをクリックして、システムのマイクロプロセッサを管理します。プロセッサとは、システム内で計算を担う主要なチップであり、計算やロジック機能の実行、その解釈を統括しています。プロセッサオブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、[プロパティ] および [アラート管理] タブなどが表示されます。

サブタブ: 情報

プロパティ

プロパティ タブでは、システムのマイクロプロセッサの情報を表示し、詳細な機能およびキャッシュ情報にアクセスできます。

アラート管理

サブタブ: アラート処置

アラート管理 タブでは、現在のアラート処置設定の表示と、プロセッサが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置の設定を行います。

リモートアクセス

[リモートアクセス] オブジェクトをクリックすることにより、ベースボード管理コントローラ (BMC) 機能または統合 Dell リモートアクセスコントローラ (iDRAC) 機能およびリモートアクセスコントローラ機能を管理できます。

リモートアクセスタブを選択して、BMC/iDRAC の一般情報などを管理します。また、LAN 上にある BMC/iDRAC、BMC/iDRAC のシリアルポート、シリアルポートのターミナルモード設定、シリアルオーバー LAN 接続をしている BMC/iDRAC、および BMC/iDRAC のユーザー管理などを行います。

メモ: Server Administrator の稼働中に、Server Administrator 以外のアプリケーションを使用して、BMC/iDRAC を設定している場合は、Server Administrator に表示される BMC/iDRAC の設定データは、BMC/iDRAC と同期していない場合があります。Server Administrator の稼働中は、Server Administrator を使用して BMC/iDRAC の設定を行うことをお勧めします。

DRAC では、システムのリモート管理機能へのアクセスができます。Server Administrator DRAC では、操作不能なシステムへのリモートアクセス、システムがダウンした際のアラート通知、システムの再起動が可能です。

リモートアクセス オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、[プロパティ] タブ、設定 タブ、[ユーザー] タブ などが表示されます。

サブタブ: 情報

プロパティ

プロパティ タブで、リモートアクセスデバイスの一般情報を表示します。IPv4 および IPv6 アドレスの属性を表示することもできます。

[デフォルトにリセット] をクリックすると、すべての属性がシステムのデフォルト値にリセットされます。

サブタブ: LAN | シリアルポート | シリアルオーバー LAN | 追加設定

構成

BMC/iDRAC を設定する場合、設定 タブで、LAN 上の BMC/iDRAC、BMC/iDRAC のシリアルポート、およびシリアルオーバー LAN 接続の BMC/iDRAC を設定できます。

メモ: 追加設定 タブは、iDRAC 搭載システムでのみ表示されます。

DRAC が設定されている場合、設定 タブでネットワークプロパティを設定できます。

[追加設定] タブでは、IPv4/IPv6 プロパティを有効または無効にできます。

メモ: IPv4/IPv6 の有効化または無効化は、デュアルスタック環境でのみ可能です (IPv4 と IPv6 スタックがロードされている場合)。

ユーザー

サブタブ: ユーザー

[ユーザー] タブでは、リモートアクセスユーザーの設定を変更できます。Remote Access Controller ユーザーの情報の表示、ユーザーの追加、設定が可能です。

リムーバブルフラッシュメディア

内蔵 SD モジュールおよび vFlash メディアの正常性と冗長性の状態を表示するには、[リムーバブルフラッシュメディア] オブジェクトをクリックします。リムーバブルフラッシュメディアの処置 ウィンドウには、**プロパティ** タブがあります。

プロパティ

サブタブ：情報

プロパティ タブでは、リムーバブルフラッシュメディアおよび内蔵 SD モジュールに関する情報を表示できます。この情報には、コネクタ名、その状況、そしてストレージサイズの詳細が含まれます。

アラート管理

サブタブ：アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理 タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、リムーバブルフラッシュメディアプローブが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置を設定できます。
- 現在の SNMP トラップアラートしきい値を表示し、リムーバブルフラッシュメディアプローブのアラートしきい値のレベルを設定できます。選択した重大度レベルのイベントをシステムが生成した場合に、選択したトラップがトリガされます。

アラート管理は、内蔵 SD モジュールおよび vFlash で共通となります。SD モジュールまたは vFlash のアラート処置/SNMP/PEF を設定すると、その両方に対してこれらが自動的に設定されます。

スロット

[スロット] オブジェクトをクリックすると、拡張カードなど、プリント回路基板を使用するシステム基板のコネクタまたはソケットを管理できます。スロット オブジェクト処置ウィンドウには **プロパティ** タブがあります。

プロパティ

サブタブ：情報

プロパティ タブでは、各スロットと取り付けられたアダプタについての情報を表示できます。

温度

[温度] オブジェクトをクリックして、お使いのシステムの内部コンポーネントへの熱損傷を防止するために、お使いのシステムの温度を管理します。Server Administrator は、お使いのシステムのシャーシ内のさまざまな場所の温度をモニタして、シャーシ内の温度が高くなりすぎないようにします。

[温度] オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて [プロパティ] タブと [アラート管理] タブが表示されることがあります。

サブタブ：温度プローブ

プロパティ タブで、システムの温度プローブの現在の読み取り値と状況を表示したり、温度プローブの警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。

メモ: いくつかの温度プローブフィールドは、システムにあるファームウェアタイプ (BMC や ESM など) によって異なります。BMC ベースのシステムでは、編集できないしきい値があります。プローブしきい値を割り当てる際、Server Administrator は入力する最小または最大値を最も近い割当可能値に四捨五入する場合があります。

アラート管理

サブタブ：アラート処置 | SNMP トラップ

[アラート管理] タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、温度プローブが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置を設定します。
- 温度プローブに対して現行の SNMP トラップを表示して、アラートしきい値レベルを設定します。選択したトラップは、システムが選択した重大度レベルで対応イベントを生成した場合にトリガーされます。

メモ: 外付けシャーシの最小および最大温度プローブしきい値は、整数のみに設定できます。最小または最大温度プローブしきい値を小数を含む値に設定しようとする、小数点前の整数部分のみがしきい値設定として保存されます。


電圧

[電圧] オブジェクトをクリックすると、システムの電圧レベルを管理できます。Server Administrator は、監視下のシステム内のシャーシのさまざまな位置で、重要なコンポーネントの電圧を監視します。電圧 オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、[プロパティ] タブおよび [アラート管理] タブなどが表示されます。

プロパティ

サブタブ：電圧プローブ

プロパティ タブで、システムの電圧プローブの現在の読み取り値と状態を表示したり、電圧プローブ警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。

 **メモ:** 一部のファンプローブフィールドは、BMC または ESM など、システムで使用されているファームウェアの種類によって異なります。一部のしきい値は BMC をベースとしたシステムでは編集できません。

アラート管理

サブタブ：アラート処置 | SNMP トラップ

アラート管理 タブでは、次の操作が可能です。

- 現在のアラート処置設定の表示と、システム電圧センサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する、アラート処置の設定を行います。
- 現在の SNMP トラップアラートしきい値を表示し、電圧センサーのアラートしきい値レベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムが生成した場合に、選択したトラップがトリガされます。

ソフトウェア

[ソフトウェア] オブジェクトをクリックすると、オペレーティングシステムやシステム管理ソフトウェアなど、管理下システムの重要なソフトウェアコンポーネントの詳しいバージョン情報が表示できます。ソフトウェア オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブなどが表示されます。

サブタブ：概要

プロパティ

プロパティ タブでは、モニタされているシステムのオペレーティングシステムとシステム管理ソフトウェアの概要を表示できます。

オペレーティングシステム

[オペレーティングシステム] オブジェクトをクリックすると、お使いのオペレーティングシステムに関する基本情報が表示されます。オペレーティングシステムオブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に基づいて **プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ：情報

プロパティ タブでは、オペレーティングシステムの情報を表示できます。

保管時

Server Administrator は、Storage Management Service を提供します。

Storage Management Service には、ストレージデバイスの設定機能があります。ほとんどの場合、Storage Management Service は、標準的な**セットアップ**を使用してインストールされています。Storage Management Service は、Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムで利用可能です。

Storage Management Service がインストールされている場合、[ストレージ] オブジェクトをクリックすると、接続している各種のアレイストレージデバイス、システムディスクなどの状態および設定が表示されます。

Storage Management Service の場合、ストレージ オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて、**プロパティ** タブなどが表示されます。

プロパティ

サブタブ：正常性

プロパティ タブでは、アレイサブシステム、オペレーティングシステムディスクなど、接続しているストレージコンポーネントやセンサーの正常性や状態を表示できます。

プリファランスホームページ設定オプションの管理

[プリファランス] ホームページの左ペイン (Server Administrator ホームページでシステムツリーが表示されている場所) には、システムツリーウィンドウの使用可能な設定オプションがすべて表示されます。表示されるオプションは、管理下システムでインストールされるシステム管理ソフトウェアに基づきます。

使用可能な [プリファランス] ホームページオプションは次のとおりです。

- 一般設定
- サーバーシステム管理者

一般設定

一般設定 オブジェクトをクリックすると、選択した Server Administrator 機能のユーザーと DSM SA 接続サービス (Web サーバ) の環境を設定できます。一般設定 オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に応じて **ユーザー** タブと **Web サーバ** タブがあります。

サブタブ : プロパティ

ユーザー

ユーザー タブでは、ホームページの外観や 電子メール ボタン用のデフォルト電子メールアドレスなどのユーザー設定を設定できます。

- Web サーバ
- サブタブ : プロパティ | X.509 証明書

Web Server タブでは、次の操作が可能です。

- DSM SA 接続サービスプリファランスの設定。サーバプリファランスの設定手順については、[[Dell EMC Systems Management Server Administration 接続サービスおよびセキュリティ設定](#)] を参照してください。
- IPv4 または IPv6 アドレス指定モードでの SMTP サーバーアドレスと バインド IP アドレスの設定。
- 新しい X.509 証明書の作成、既存の X.509 証明書の再利用、または認証機関 (CA) からの認証チェーンのインポートによる X.509 証明書の管理。証明書管理の詳細については、[[X.509 証明書管理](#)] を参照してください。

Server Administrator

[Server Administrator] オブジェクトをクリックして、ユーザーまたはパワーユーザー権限を持つユーザーに対するアクセスを有効化または無効化します。Server Administrator オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ権限に応じて **プリファランス** タブが表示される場合があります。

サブタブ : アクセス設定


プリファランス

プリファランス タブでは、ユーザーまたはパワーユーザー権限を持つユーザーに対するアクセスを有効化または無効化することができます。

Server Administrator ログ

Server Administrator を使用すると、ハードウェア、アラート、およびコマンドなどのログを表示して管理できます。すべてのユーザーが Server Administrator ホームページまたはコマンドラインインタフェースからログにアクセスして、レポートを印刷できます。ログをクリアするには管理者権限でログインし、ログを指定のサービス連絡先に電子メールで送信するには管理者権限またはパワーユーザー権限でログインする必要があります。

コマンドラインからのログの表示およびレポートの作成については、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator コマンドラインインタフェースガイド』を参照してください。

Server Administrator ログの表示中に **ヘルプ** () をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細を表示できます。Server Administrator ログヘルプは、ユーザーの権限レベルと、Server Administrator が管理下システム上で検出する特定のハードウェアおよびソフトウェアグループに応じてアクセスできる、すべてのウィンドウで利用できます。

トピック：

- [組み込み機能](#)
- [Server Administrator ログ](#)

組み込み機能


列見出しをクリックして、列を並べ替えるか、または列の並べ替え方法を変更します。さらに、各ログウィンドウには、システムの管理とサポートに使用できるタスクボタンがいくつか含まれます。

ログ ウィンドウのタスク ボタン

次の表は、ログウィンドウのタスクボタンを表しています。

表 11. ログ ウィンドウのタスク ボタン

名前	説明
印刷	ログのコピーをデフォルトのプリンターで印刷します。
エクスポート	各データフィールドがカスタマイズ可能な区切り文字で区切られた値を持つ、ログデータを含むテキストファイルを、指定の場所に保存します。
電子メール	添付ファイルとしてログの内容を含む E メール メッセージを作成します。
ログを消去	ログからすべてのイベントを消去します。
名前を付けて保存	ログの内容を .zip ファイル形式で保存します。
更新	アクション ウィンドウのデータ領域で、ログの内容を再度ロードします。

 **メモ:** タスクボタンの使用方法については、「[タスクボタン](#)」を参照してください。

Server Administrator ログ

Server Administrator では次のログを提供しています。

- [ハードウェアログ](#)
- [アラートログ](#)
- [コマンドログ](#)

ハードウェアログ






Dell 第 11 世代 PowerEdge システムでは、ハードウェアログを使用してシステムのハードウェアコンポーネントの潜在的な問題を見つけます。ハードウェアログステータスインジケータは、ログファイルが容量の 100 パーセントに達すると重要状態 () に変わります。システムによって、組み込みシステム管理 (ESM) ログとシステムイベントログ (SEL) の 2 種類の異なるハードウェアログがあります。ESM ログと SEL はそれぞれ、システム管理ソフトウェアにハードウェアのステータスメッセージを送ることができる、一組の組み込み指示です。ログに一覧表示された各コンポーネントには、名前の横にステータスインジケータアイコンがあります。次の表に、ステータスインジケータを示します。

表 12. ハードウェアログの状態インジケータ



ステータス	説明
緑のチェックマーク ()	コンポーネントが正常 (通常の状態) であることを示します。
感嘆符がある黄色の三角形 ()	コンポーネントは警告 (非重要) 状態で、早急な対応が必要であることを示します。
赤色の X ()	コンポーネントがエラー (重要) 状態にあり、即座の対応が必要なことを示します。
クエスチョンマーク ()	コンポーネントの正常性が不明であることを示します。

ハードウェアログにアクセスするには、[システム] をクリックし、[ログ] タブをクリックしてから、[ハードウェア] をクリックします。

ESM および SEL ログに表示される情報は次のとおりです。


- イベントの重大度
- イベントがキャプチャされた日時
- イベントの説明


ハードウェアログの維持

ログファイルの容量が 80 % に到達すると、Server Administrator ホームページにあるログ名の横にある状態インジケータアイコンが、正常状態 () から非重要状態 () に変わります。容量が 80 % に達したら、ハードウェアログを必ずクリアしてください。ログの容量が 100 % に達すると、最新のイベントはログに記録されなくなります。

ハードウェアログをクリアするには、**ハードウェアログ** ページで、[ログのクリア] リンクをクリックします。

アラートログ

 **メモ:** アラートログで無効な XML データ (例えば選択されたデータ用に生成された XML データの形式が正しくない場合) が表示された場合、[ログのクリア] をクリックするとログ情報が再度表示されます。

 **メモ:** アラートログファイルのサイズは制限されます。最大アラートログをキャプチャするには、オペレーティングシステムのすべてのログフィルタを有効にします。

アラートログを使って、さまざまなシステムイベントをモニターします。Server Administrator はセンサーおよびその他のモニターされたパラメーターの変化に対応してイベントを生成します。アラートログに記録された各ステータス変更イベントは、特定のイベントソースカテゴリのイベント ID と呼ばれる固有の識別子と、そのイベントを説明するイベントメッセージで構成されています。イベント ID とメッセージはイベントの重大度と原因を個別に解説し、イベントのロケーション、モニターされたコンポーネントが以前の状態など、関連情報を提供します。

アラートログにアクセスするには、[システム] をクリックし、[ログ] タブをクリックしてから、[アラート] をクリックします。

アラートログに表示される情報は次のとおりです。

- イベントの重大度
- イベント ID
- イベントがキャプチャされた日時

- イベントのカテゴリ
- イベントの説明

① メモ: 将来のトラブルシューティングおよび診断目的でログ履歴が必要となる場合があります。そのため、ログファイルを保存しておくことをお勧めします。

① メモ: OMSA は、重複した SNMP トラップ、またはログ重複イベントをアラートログページまたはオペレーティングシステムログファイルに送信する場合があります。重複トラップおよびイベントは、OMSA サービスが手動で再起動された場合、またはオペレーティングシステム再起動後に OMSA サービスが起動するときにデバイスセンサーが引き続き異常状態を示す場合にログに記録されます。

アラートメッセージの詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

コマンドログ

① メモ: コマンドログで無効な XML データ（例えば選択されたデータ用に生成された XML データの形式が正しくない場合）が表示された場合、**ログのクリア** をクリックするとログ情報が再度表示されます。

コマンドログを使って、Server Administrator ユーザーが発行したすべてのコマンドをモニタします。コマンドログはログイン、ログアウト、システム管理ソフトウェアの初期化、システム管理ソフトウェアが開始したシャットダウンをトラッキングし、前回のログのクリアを記録します。コマンドログファイルのサイズは、要件に応じて指定できます。

コマンドログにアクセスするには、[システム] をクリックし、[ログ] タブをクリックしてから、[コマンド] をクリックします。

コマンドログに表示される情報は次のとおりです。

- コマンドが呼び出された日時
- Server Administrator ホームページまたは CLI に現在ログインしているユーザー
- コマンドと関連値の説明

① メモ: 将来のトラブルシューティングおよび診断目的でログ履歴が必要となる場合があります。そのため、ログファイルを保存しておくことをお勧めします。

Remote Access Controller の操作

システムベースボード管理コントローラ (BMC) /Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) は、システムボード上のさまざまなセンサーと通信して重要なイベントを監視し、一定のパラメーターが事前設定されたしきい値を超えたときにアラートとログイベントを送信します。BMC/iDRAC は、業界標準のインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) 仕様に对应しており、システムをリモートで設定、監視および復旧することができます。

メモ: Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) は、第 10 世代以降の PowerEdge システムでサポートされています。

DRAC は、システムのリモート管理機能、クラッシュしたシステムのリカバリ、電源制御機能などを提供するシステム管理ハードウェアおよびソフトウェアソリューションです。

システムのベースボード管理コントローラ (BMC) /Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) との通信によって、電圧、温度、およびファン速度に関連した警告やエラーが電子メールアラートとして送信されるように DRAC を設定できます。DRAC は、考えられるシステム障害の原因の診断に役立つように、イベントデータおよび最新の障害画面 (Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでのみ使用可能) も記録します。

リモートアクセスコントローラは、動作不能のシステムへのリモートアクセスを行い、迅速なシステムの立ち上げを実現します。リモートアクセスコントローラは、システムがダウンしたときにアラートで通知し、システムをリモートで再起動できるようにします。また、リモートアクセスコントローラはシステム障害の推定原因をログに記録し、*前回のクラッシュ画面*を保存します。

Remote Access Controller へは Server Administrator ホームページからログインできるほか、対応ブラウザを使ってコントローラの IP アドレスに直接アクセスすることもできます。

リモートアクセスコントローラを使用する場合、**ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウの詳細な説明が表示されます。リモートアクセスコントローラのヘルプは、ユーザーの権限レベルと、Server Administrator が管理下システムで検出する特定のハードウェアとソフトウェアのグループに基づいて、アクセス可能なすべてのウィンドウで使用できます。

メモ: BMC についての詳細は、dell.com/systemsecuritymanuals で『*Dell EMC OpenManage Baseboard Management Controller ユーティリティユーザーズガイド*』を参照してください。

メモ: iDRAC の設定と使用についての詳細は、dell.com/systemsecuritymanuals にある『*Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*』を参照してください。

次の表は、システムに Server Administrator がインストールされている際の GUI フィールド名およびその該当システムの一覧です。

表 13. GUI フィールド名および該当するシステム

GUI フィールド名	該当システム
[モジュールエンクロージャ]	モジュールシステム
[サーバーモジュール]	モジュールシステム
[メインシステム]	モジュールシステム
[システム]	非モジュールシステム
[メインシステムシャーシ]	非モジュールシステム

リモートアクセスデバイスに対するシステムサポートについての詳細は、dell.com/openmanagemanuals で『*Dell EMC Systems Software サポートマトリックス*』を参照してください。

Server Administrator を使用すると、リモート、インバンドでイベントログ、電源制御、およびセンサステータス情報にアクセスでき、BMC/iDRAC を設定する機能が利用できます。BMC/iDRAC と DRAC を Server Administrator グラフィカルユーザーインタフェースから管理するには、**メインシステムシャーシ / メインシステム** グループのサブコンポーネントである [リモートアクセス] オブジェクトをクリックします。

次のタスクを実行できます。

- [基本情報の表示](#)
- [リモートアクセスデバイスの LAN 接続使用の設定](#)
- [リモートアクセスデバイスのシリアルオーバー LAN 接続使用の設定](#)
- [シリアルポート接続用リモートアクセスデバイスの設定](#)

- [iDRAC の追加設定](#)
- [リモートアクセスデバイスユーザーの設定](#)
- [プラットフォームのイベントフィルタアラートの設定](#)

システムでリモートアクセス機能を提供しているハードウェアに基づいて、BMC/iDRAC または DRAC の情報を表示できます。

BMC/iDRAC と DRAC のレポートおよび設定は、`omreport/omconfig chassis remoteaccess` コマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドを使用して管理することもできます。


さらに Server Administrator Instrumentation Service を使用して、プラットフォームのイベントフィルタ (PEF) パラメータとアラートの送信先を管理できます。

トピック：

- [基本情報の表示](#)
- [リモートアクセスデバイスの LAN 接続使用の設定](#)
- [シリアルポート接続用リモートアクセスデバイスの設定](#)
- [リモートアクセスデバイスのシリアルオーバー LAN 接続使用の設定](#)
- [iDRAC の追加設定](#)
- [リモートアクセスデバイスユーザーの設定](#)
- [プラットフォームのイベントフィルタアラートの設定](#)

基本情報の表示

BMC/iDRAC、IPv4 アドレス、DRAC についての基本情報を表示できます。また、リモートアクセスコントローラの設定をデフォルト値にリセットすることもできます。リセットするには、次の操作を行います。

 **メモ:** BMC 設定をリセットするには、管理者権限でログインする必要があります。

[モジュラーエンクロージャ] > [システム / サーバーモジュール] > [メインシステムシャーシ / メインシステム] > [リモートアクセス] の順にクリックします。

リモートアクセス ページには、システムの BMC に関する次の基本情報が表示されます。

リモートアクセスデバイス


- デバイスの種類
- IPMI バージョン
- システム GUID
- アクティブ可能なセッション数
- 現在アクティブなセッション数
- LAN 有効
- SOL 有効
- MAC アドレス

IPv4 アドレス

- IP アドレスソース
- IP アドレス
- IP サブネット
- IP ゲートウェイ

IPv6 アドレス

- IP アドレスソース
- IPv6 アドレス 1
- デフォルトゲートウェイ
- IPv6 アドレス 2
- リンクのローカルアドレス
- DNS アドレスソース
- 優先 DNS サーバー
- 代替 DNS サーバー

 **メモ:** [リモートアクセス] タブの [追加設定] で IPv4 と IPv6 アドレスプロパティを有効にした場合にのみ、IPv4 と IPv6 アドレスの詳細を表示できます。

リモートアクセスデバイスの LAN 接続使用の設定

LAN 接続を介して通信するようにリモート アクセス デバイスを設定するには、次の手順を実行します。

1. [[モジュラー型エンクロージャ]] > [[システム/サーバー モジュール]] > [[メイン システム シャーシ/メイン システム]] > [[リモート アクセス]] オブジェクトの順にクリックします。
2. [設定] タブをクリックします。
3. [LAN] をクリックします。

[LAN 設定] ウィンドウが表示されます。

メモ: マザーボード上の LAN がネットワークアダプタのアドインカードとチーミングされている場合、BMC/iDRAC 管理トラフィックは正しく機能しません。

4. 次の NIC 設定詳細を設定します。

- NIC の有効化 (NIC チーミングにはこのオプションを選択します。)

メモ: お使いの DRAC には、10BASE-T/100BASE-T イーサネット NIC が組み込まれており、TCP/IP がサポートされます。NIC に設定されたデフォルトのアドレスは 192.168.20.1 で、デフォルトのゲートウェイは 192.168.20.1 です。

メモ: DRAC で同じ IP アドレスを同じネットワーク上の別の NIC として構成している場合、IP アドレスの競合が発生します。DRAC でその IP アドレスが変更されるまで、DRAC はネットワーク コマンドへの応答を停止します。別の NIC の IP アドレスを変更することで IP アドレスの競合を解決した場合でも、DRAC をリセットする必要があります。

メモ: DRAC の IP アドレスを変更すると、DRAC はリセットされます。DRAC が初期化される前に SNMP が DRAC をポーリングした場合、初期化されるまでは正しい温度が送信されないため、温度の警告がログに記録されます。

- NIC 選択

メモ: NIC 選択は、モジュラーシステムでは設定できません。

メモ: NIC 選択オプションは、第 11 世代以前のシステムのみで使用できます。

- プライマリーネットワークおよびフェイルオーバーネットワークのオプション

YX2X システムの場合、リモート管理 (iDRAC7) NIC のプライマリー ネットワークのオプションは次のとおりです。LOM1、LOM2、LOM3、LOM4、Dedicated。フェールオーバー ネットワークのオプションは次のとおりです。LOM1、LOM2、LOM3、LOM4、All LOMs、None。

メモ: Dedicated オプションは、iDRAC7 Enterprise ライセンスが存在し、有効である場合に、使用可能になります。LOM の数は、システムまたはハードウェアの設定によって異なります。

- IPMI オーバー LAN を有効にする
- IP アドレスソース
- IP アドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイアドレス
- チャンネル特権レベルの制限
- 新しい暗号化キー

5. 次の VLAN 設定詳細を設定します。

メモ: VLAN 設定は iDRAC のシステムには該当しません。

- VLAN ID を有効にする
- VLAN ID
- 優先順位

6. 次の IPv4 プロパティを設定します。

- IP アドレスソース
- IP アドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイアドレス

7. 次の IPv6 プロパティを設定します。

- IP アドレスソース

- IP アドレス
- プレフィックス長
- デフォルトゲートウェイ
- DNS アドレスソース
- 優先 DNS サーバー
- 代替 DNS サーバー

① | メモ: [追加設定] で IPv4 と IPv6 プロパティを有効にした場合にのみ IPv4 と IPv6 アドレスの詳細を設定できます。

8. [変更の適用] をクリックします。

シリアルポート接続用リモートアクセスデバイスの設定

シリアルポート接続を介した通信に BMC を設定するには、次の操作を行います。

1. [モジュールエンクロージャ] > [システム / サーバーモジュール] > [メインシステムシャーシ / メインシステム] > [リモートアクセス] の順にクリックします。

2. [設定] タブをクリックします。

3. [シリアルポート] をクリックします。

[シリアルポート設定] ウィンドウが表示されます。

4. 次の詳細を設定します。

- 接続モード設定
- ボーレート
- フロー制御
- チャンネル特権レベルの制限

5. [変更の適用] をクリックします。

6. [ターミナルモード設定] をクリックします。

ターミナルモード設定 ウィンドウでは、シリアルポートのターミナルモード設定を指定できます。

ターミナルモードは、インテリジェントプラットフォームインターフェース管理 (IPMI) のメッセージ用に、シリアルポートで ASCII 文字によって出力するために使用します。ターミナルモードは、限られたいくつかのテキストコマンドにも対応して、テキストベースのレガシー環境をサポートしています。この環境は、単純なターミナルやターミナルエミュレータを使用できるように設計されています。

7. 既存のターミナルとの互換性を強化するには、次のカスタマイズを指定します。

- ライン編集
- 削除制御
- エコー制御
- ハンドシェイク制御
- 新しいラインシーケンス
- 新しいラインシーケンスの入力

8. [変更の適用] をクリックします。

9. [シリアルポート設定ウィンドウに戻る] をクリックすると、[シリアルポート設定] ウィンドウに戻ります。

リモートアクセスデバイスのシリアルオーバー LAN 接続使用の設定

シリアルオーバー LAN (SOL) 接続を介する通信用に BMC/iDRAC を設定するには、次の操作を行います。

1. [モジュールエンクロージャ] > [システム / サーバーモジュール] > [メインシステムシャーシ / メインシステム] > [リモートアクセスオブジェクト] の順にクリックします。

2. [設定] タブをクリックします。

3. [シリアルオーバー LAN] をクリックします。

[シリアルオーバー LAN 設定] ウィンドウが表示されます。


4. 次の詳細を設定します。

- シリアルオーバー LAN を有効にする
 - ボーレート
 - 必要とされる最小特権
5. [変更の適用] をクリックします。
 6. [詳細設定] をクリックすると、BMC をさらに詳細に設定できます。
 7. [シリアルオーバー LAN 詳細設定] ウィンドウ では、次の情報の設定が可能です。
 - 文字累積間隔
 - 文字送信しきい値
 8. [変更の適用] をクリックします。
 9. [シリアルオーバー LAN 設定に戻る] をクリックすると、[シリアルオーバー LAN 設定] ウィンドウに戻ります。

iDRAC の追加設定

[追加設定] タブを使って IPv4 と IPv6 プロパティを設定するには、次の操作を行います。


1. [モジュラーエンクロージャ] [→システム / サーバーモジュール] [→メインシステムシャーシ / メインシステム] [→リモートアクセスオブジェクト] とクリックします。
2. [設定] タブをクリックします。
3. [追加設定] をクリックします。
4. IPv4 と IPv6 のプロパティを [有効] または [無効] に設定します。
5. [変更の適用] をクリックします。

 **メモ:** ライセンス管理の詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Dell License Manager ユーザーズガイド』を参照してください。

リモートアクセスデバイスユーザーの設定

リモートアクセスページを使ってリモートアクセスデバイスユーザーの設定をするには、次の操作を行います。

1. [モジュラーエンクロージャ] > [システム / サーバーモジュール] > [メインシステムシャーシ / メインシステム] > [リモートアクセスオブジェクト] の順にクリックします。
2. [ユーザー] タブをクリックします。
[リモートアクセスユーザー] ウィンドウには、BMC/iDRAC ユーザーとして設定できるユーザーについての情報が表示されません。
3. [ユーザー ID] をクリックすると、新規または既存の BMC/iDRAC ユーザーを設定できます。
[リモートアクセスユーザー設定] ウィンドウでは、特定の BMC/iDRAC ユーザーを設定できます。
4. 次の一般情報を指定します。
 - [ユーザーを有効にする] を選択すると、ユーザーが有効になります。
 - [ユーザー名] フィールドにユーザーの名前を入力します。
 - [パスワードの変更] チェックボックスを選択します。
 - [新規パスワード] フィールドに新しいパスワードを入力します。
 - [新規パスワードの確認] フィールドに新しいパスワードを再入力します。
5. 次のユーザー権限を指定します。
 - LAN ユーザー権限レベルの上限を選択します。
 - 許可するシリアルポートユーザー権限の上限を選択します。
6. DRAC/iDRAC ユーザー権限のユーザーグループを指定します。
7. [変更の適用] をクリックして変更を保存します。
8. [リモートアクセスユーザーウィンドウに戻る] をクリックすると、[リモートアクセスユーザー] ウィンドウに戻ります。

 **メモ:** DRAC がインストールされている場合、6 つの追加ユーザーエントリが設定可能です。これによりユーザー合計数は 16 になります。BMC/iDRAC および RAC ユーザーに対しても同じユーザー名およびパスワードの規定が適用されます。DRAC/iDRAC6 がインストールされると、16 のユーザーエントリすべては DRAC に割り当てられます。

プラットフォームのイベントフィルタアラートの設定

Server Administrator Instrumentation Service を使用してプラットフォームイベントフィルタ (PEF) のパラメーターやアラートの宛先などの最も関連のある BMC 機能を設定するには、次の手順を行います。

1. システム オブジェクトをクリックします。
2. 警告管理 タブをクリックします。
3. プラットフォームイベント をクリックします。

プラットフォームイベント ウィンドウは、特定のプラットフォームイベントに個別の処置を行うことを可能にします。シャットダウン処置を取るイベントを選択し、選択した処置に関するアラートを生成できます。また、希望する特定の送信先 IP アドレスにアラートを送信することもできます。

メモ: BMC PEF アラートを設定するには、管理者特権でログインする必要があります。

メモ: **プラットフォームイベントアラートを有効にする** 設定で、PEF アラート生成を有効または無効にします。これは、個別のプラットフォームイベントアラート設定に依存します。

メモ: **システム電源プローブ警告** と **システム電源プローブエラー** は、Server Administrator を使用して設定できますが、PMBus サポートのない PowerEdge システムではサポートされていません。

4. シャットダウン処置を実行するか選択した処置のアラートを生成するプラットフォームイベントを選択し、**プラットフォームイベントの設定** をクリックします。

プラットフォームイベントの設定 ウィンドウでは、システムがプラットフォームイベントに反応してシャットダウンした場合の処置を指定できます。

5. 次の処置の1つを選択します。

- なし
- システムの再起動

オペレーティングシステムをシャットダウンし、システムのスタートアップを開始して、BIOS チェックを行い、オペレーティングシステムをリロードします。

- システムの電源を切る

システムの電源をオフにします。

- システムの電源を入れ直す

電源のシステムをオフにしたり、一時停止したり、電源をオンにするほか、システムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化する場合に便利です。

- 電源の低減

CPU をスロットルします。

注意: なし または 電源の低減 以外のプラットフォームイベントシャットダウン処置を選択すると、指定したイベントが発生した場合にシステムが強制的にシャットダウンされます。このシャットダウンはファームウェアによって開始され、オペレーティングシステムや実行中のアプリケーションを事前にシャットダウンすることなく行われます。

メモ: 電源の低減はすべてのシステムでサポートされているわけではありません。電源装置モニタリングおよび電源モニタリング機能は、複数の冗長、ホットスワップ可能な電源装置が取り付けられているシステムにのみ対応します。これらの機能は、電力管理回路がない永久的に取り付けられた非冗長の電源装置には使用できません。

6. 送信するアラートの **アラートの生成** チェックボックスを選択します。

メモ: アラートを生成するには、[アラートの生成] と [プラットフォームイベントアラートの有効化] 設定の両方を選択する必要があります。

7. 適用 をクリックします。

8. **プラットフォームイベントページに適用する** をクリックすると、**プラットフォームイベントフィルタ** ウィンドウに戻ります。

プラットフォームイベントアラート送信先の設定

[プラットフォームイベントフィルタ]ウィンドウを使用しても、プラットフォームイベント用のアラートが送信される宛先を選択できます。表示される送信先の番号に応じて、各送信先アドレスに個別のIPアドレスを設定できます。プラットフォームイベントアラートは、ユーザーが設定する送信先IPアドレスそれぞれに送信されます。

1. プラットフォームイベントフィルタのウィンドウで、**宛先の設定**をクリックします。
2. 設定する宛先の番号をクリックします。

メモ: 特定のシステムで設定できる送信先の数は、異なる場合があります。

3. **トラップ先を有効にする** チェックボックスを選択します。
4. [**送信先番号**] をクリックして、その送信先の個別のIPアドレスを入力します。このIPアドレスは、プラットフォームイベントアラートが送信される宛先のIPアドレスです。

メモ: iDRAC7 固有のバージョンを有する YX2X システムでは、プラットフォームイベントの送信先を IPv4、IPv6、または FQDN に設定することができます。

5. 管理ステーションと管理下システム間で送信されるメッセージの認証に使用するパスワードとして機能する値を **コミュニティ文字列** フィールドに入力します。コミュニティ文字列 (コミュニティ名とも呼ばれます) は、管理ステーションと管理下システム間におけるパケットごとに送信されます。
6. **適用** をクリックします。
7. **プラットフォームイベントページに戻る** をクリックすると、**プラットフォームイベントフィルタ** ウィンドウに戻ります。

アラート処置の設定

トピック：

- 対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムが実行されるシステムにおけるアラート処置の設定
- アプリケーションを実行する Windows Server でのアラート処置の設定
- BMC または iDRAC プラットフォームイベントフィルタアラートメッセージ

対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムが実行されるシステムにおけるアラート処置の設定

イベントにアラート処置を設定する場合は、処置でサーバにアラートを表示するよう指定できます。この処置を実行するには、Server Administrator がメッセージを `/dev/console` に送信します。Server Administrator システムが X Window System を実行している場合、メッセージは表示されません。X Windows System を実行中の Red Hat Enterprise Linux システムでアラートメッセージを表示するには、イベントが発生する前に `xconsole` または `xterm -C` を起動する必要があります。X Windows System を実行中の SUSE Linux Enterprise Server システムでアラートメッセージを表示するには、イベント発生前に `xterm -C` などの端末を起動する必要があります。

イベントにアラート処置を設定する場合は、アラート処置でメッセージをブロードキャストするよう指定できます。このアラート処置を実行するために、Server Administrator は `wall` コマンドを実行します。このコマンドは、メッセージ許可が **はい** に設定されている状態でログインしているすべてのユーザーにメッセージを送信します。Server Administrator が実行されているシステムで X Window System を実行している場合、このメッセージはデフォルトで表示されません。X Window System を実行しているときにブロードキャストメッセージを表示するには、イベントが発生する前に `xterm` または `gnome-terminal` などのターミナルを起動する必要があります。

イベントにアラート処置を設定する場合は、処置でアプリケーションを実行するよう指定できます。Server Administrator が実行できるアプリケーションには制限があります。正しく実行するためには次の操作を行います：

- Server Administrator は X Window System ベースのアプリケーションを正しく実行できないため、この種類のアプリケーションは指定しないでください。
- Server Administrator はユーザーからの入力が必要とするアプリケーションを正しく実行できないため、そのようなアプリケーションを指定しないでください。
- 出力やエラーメッセージが見えるように、アプリケーション指定時に、`stdout` と `stderr` をファイルにリダイレクトしてください。
- アラートに対して複数のアプリケーション（またはコマンド）を実行する場合、それを実行するスクリプトを作成し、その完全パスを **アプリケーションの絶対パス** ボックスに入力します。

例 1: `ps -ef >/tmp/psout.txt 2>&1`

例 1 のコマンドは、`ps` のアプリケーションを実行し、`stdout` を `/tmp/psout.txt` ファイルにリダイレクトして、`stderr` を `stdout` と同じファイルにリダイレクトします。

例 2: `mail -s "Server Alert" admin </tmp/alertmsg.txt>/tmp/mailout.txt 2>&1`

例 2 のコマンドは、メールアプリケーションを実行してファイル `/tmp/alertmsg.txt` に含まれるメッセージを Red Hat Enterprise Linux ユーザーまたは SUSE Linux Enterprise Server ユーザー、および管理者に **サーバーアラート** という件名で送信します。ファイル `/tmp/alertmsg.txt` は、イベントが発生する前にユーザーが作成する必要があります。さらに、エラーの発生に備えて `stdout` および `stderr` はファイル `/tmp/mailout.txt` にリダイレクトされます。

アプリケーションを実行する Windows Server でのアラート処置の設定

Windows では、[対話型サービス検出] がデフォルトで無効となっています。実行可能アプリケーションを有効にする場合、[対話型サービス検出] が [Regedit] でアクティブでなければなりません。

[対話型サービス検出] を有効にするには、以下の手順に従います。

Modifying the [NolteractiveServices]

1. [Regedit] を開きます。
2. HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Windows\ に移動します。
3. [NolteractiveServices] を右クリックして、[変更] をクリックします。
4. [値のデータ] に [0] を入力し、[OK] をクリックします。
5. [Regedit] を閉じます
6. ユーザーをグループに追加するには、**グループ** ドロップダウンメニューからグループ名を選択し、[追加] をクリックします。
7. [[OK]] をクリックします。

Enabling the [Interactive Service Detection]

8. [Services.msc] を開きます。
9. [対話型サービス検出] に移動します。
10. [対話型サービス検出] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
11. [一般] タブで [起動のタイプ] を [自動] に変更して、[適用] をクリックします。
12. サービスステータスで [起動] をクリックします。

Allowing the service to interact

13. [DSM SA Data Manager] に移動して右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
14. [ログオン] タブで [デスクトップとの対話をサービスに許可] を有効にし、[適用] をクリックします。
15. [[OK]] をクリックします。

[DSM SA Data Manager] を再起動して [対話型サービス検出] を有効にします。

対話型アプリケーション - 対話型アプリケーションの例としては、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を備えたアプリケーションやユーザーによる入力 (バッチファイルでの pause コマンドなど) が必要なアプリケーションなどが挙げられます。

メモ: 対話型アプリケーションを表示するには、ポップアップメッセージ [対話型サービス検出] がメッセージ A program running on this computer is trying to display a message とともに表示されたら、[メッセージの表示] をクリックします。

BMC または iDRAC プラットフォームイベントフィルタアラートメッセージ

次の表では、使用可能なプラットフォームイベントフィルタ (PEF) メッセージと、各イベントの説明を示します。

表 14. PEF アラートイベント

イベント	説明
ファンプローブエラー	ファンの稼働速度が遅すぎるかまったく動作していません。
電圧プローブ障害	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
バッテリープローブ警告	バッテリーが推奨されている充電レベル未満で稼働しています。
バッテリープローブ障害	バッテリーが故障しました。
外付け電圧プローブ障害	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
温度プローブ警告	温度が過度の高低の限度に近づいています。
温度プローブエラー	温度が高すぎるか低すぎて正しく動作できません。

表 14. PEF アラートイベント (続き)

イベント	説明
検出されたシャージイントルージョン	システムシャージが開けられました。
冗長性 (PS またはファン) が劣化	ファンや電源装置の冗長性が低下しています。
冗長性 (PS またはファン) 喪失	システムのファンおよび / または電源装置には冗長性がありません。
プロセッサ警告	プロセッサがピークパフォーマンス以下または速度以下で動作しています。
プロセッサ障害	プロセッサが故障しました。
プロセッサ不在	プロセッサが取り外されました。
PS/VRM/D2D 警告	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC から DC への変換機は障害が差し迫った状態です。
PS/VRM/D2D エラー	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC から DC への変換機が故障しました。
ハードウェアログが一杯または空	ハードウェアログが満杯か空であり、システム管理者の注意が必要です。
自動システムリカバリ	システムがハングしているか、応答しておらず、自動システム回復によって設定された処置を実行しています。
システム電源プローブ警告	電力消費量が障害しきい値に近づいています。
システム電源プローブ障害	電力消費量が許容上限を超え、障害が発生しました。
リムーバブルフラッシュメディア不在	リムーバブルフラッシュメディアが取り外されました。
リムーバブルフラッシュメディア障害	リムーバブルフラッシュメディアは障害が差し迫った状態です。
リムーバブルフラッシュメディア警告	リムーバブルフラッシュメディアは障害が差し迫った状態です。
内蔵デュアル SD モジュールカード重要	内蔵デュアル SD モジュールカードに障害が発生しました。
内蔵デュアル SD モジュールカード警告	内蔵デュアル SD モジュールカードは障害が差し迫った状態です。
内蔵デュアル SD モジュールの冗長性損失	内蔵デュアル SD モジュールカードに冗長性がありません。
内蔵デュアル SD モジュールカード不在	内蔵デュアル SD モジュールカードが取り外されました。

トラブルシューティング

接続サービスエラー

Red Hat Enterprise Linux では、SELinux is set to enforced mode 場合、Dell Systems Management Server Administrator (SM SA) 接続サービスが起動に失敗します。次の手順のいずれかを実行して、このサービスを起動してください。

- SELinux を Disabled モードまたは Permissive モードに設定します。
- SELinux の allow_execstack プロパティを ON 状態に変更する。次のコマンドを実行します。

```
setsebool allow_execstack on
```

- SM SA 接続サービスのセキュリティコンテキストを変更します。次のコマンドを実行します。chcon -t unconfined_execmem_t /opt/dell/srvadmin/sbin/dsm_om_connsvcd

トピック：

- ログイン失敗のシナリオ
- 対応 Windows オペレーティングシステムで Server Administrator のインストールエラーを修正する
- Server Administrator サービス

ログイン失敗のシナリオ

次のような場合に、管理下システムにログインできないことがあります。

- 無効または誤った IP アドレス を入力した。
- 誤った資格情報 (ユーザー名およびパスワード) を入力した。
- 管理下システムがオフになっている。
- 無効な IP アドレスまたは DNS エラーにより、管理下システムに到達できない。
- 管理下システムが信頼されていない証明書を持ち、ログインページで [証明書の警告を無視する] が選択されていない。
- VMware ESXi システム上で Server Administrator サービスが有効になっていない。VMware ESXi システムで Server Administrator サービスを有効化する方法に関しては、dell.com/openmanagemanuals の『Server Administrator インストールガイド』を参照してください。
- VMware ESXi システム上で、SFCBD (small footprint CIM broker daemon) サービスが実行されていない。
- 管理下システム上で Web Server Management サービスが実行されていない。
- **証明書の警告を無視する** チェックボックスが選択されていないにもかかわらず、ホスト名ではなく管理下システムの IP アドレスを入力した。
- 管理下システムに WinRM 認証機能 (Remote Enablement) が設定されていない。この機能についての情報は、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator インストールガイド』を参照してください。
- VMware ESXi 5.0 オペレーティングシステムへの接続中における認証エラーがある。次のいずれかの原因が考えられます。
 1. サーバーにログイン中または Server Administrator にログイン中に lockdown モードが有効になった。lockdown モードの詳細については、VMware マニュアルを参照してください。
 2. Server Administrator にログイン中にパスワードが変更された。
 3. システム管理者権限なしで普通のユーザーとして Server Administrator にログインした。詳細については、VMware マニュアルで役割の割り当てに関する説明を参照してください。

対応 Windows オペレーティングシステムで Server Administrator のインストールエラーを修正する

再インストールを強制し、次に Server Administrator のアンインストールを実行するとインストールの不具合を修正できます。

再インストールを強制するには：

1. インストールされている Server Administrator のバージョンを特定します。
2. **support.dell.com** から、該当するバージョンのインストールパッケージをダウンロードします。
3. `srvadmin\windows\SystemManagement` ディレクトリから `SysMgmt.msi` を見つけます。
4. コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、再インストールを強制します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL
REINSTALLMODE=vamus
```

5. [カスタムセットアップ] を選択し、最初にインストールされていたすべての機能を選択します。インストールされていた機能が不明な場合は、すべての機能を選択してインストールを実行します。

- ① **メモ:** Server Administrator をデフォルトでないディレクトリにインストールしていた場合は、[カスタムセットアップ] においても必ずこれを変更するようにしてください。
- ① **メモ:** アプリケーションがインストールされた後、**プログラムの追加と削除** を使って Server Administrator をアンインストールすることができます。

Server Administrator サービス

次の表には、システム管理情報を提供するために Server Administrator で使用されるサービスと、これらのサービスの障害による影響を示します。

表 15. Server Administrator サービス

サービス名	説明	障害の影響	リカバリメカニズム	重大度
Windows : SM SA 接続サービス Linux : <code>dsm_om_connsvc</code> (このサービスは、Server Administrator Web サーバと共にインストールされます。)	対応 Web ブラウザとネットワーク接続を持つどのシステムからでも、Server Administrator にリモート/ローカルアクセスが可能です。	ユーザーは、Web ユーザーインターフェースで Server Administrator にログインできず、操作も実行できません。ただし、CLI は引き続き使用できます。	サービスの再起動	重要
Windows : SM SA 共有サービス Linux : <code>dsm_om_shrsvc</code> (このサービスは管理下システム上で実行されません。)	起動時にインベントリコレクタを実行して、Server Administrator SNMP と CIM プロバイダが System Management Console と Dell OpenManage Essentials を使ってリモートソフトウェアアップデートを行うために取りこむシステムのソフトウェアインベントリを実行します。	OpenManage Essentials を使用してソフトウェアアップデートを実行することはできません。ただし、個別の Dell アップデートパッケージを使えば、Server Administrator 外でローカルに実行できます。アップデートは、サードパーティのツール(たとえば、MSSMS、Altiris および Novell ZENworks など)を使って行うことができます。	サービスの再起動	警告
<ul style="list-style-type: none"> ① メモ: Server Administrator は、重複した SNMP トラップ、またはログ重複イベントをアラートログページまたはオペレーティングシステムログファイルに送信する場合があります。重複トラップおよびイベントは、Server Administrator サービスが手動で再起動された場合、またはオペレーティングシステム再起動後に Server Administrator サービスが起動するときにデバイスセンサーが引き続き異常状態を示す場合にログに記録されます。 ① メモ: インベントリコレクタは、Dell Update パッケージを使った Dell コンソールのアップデートに必要です。 ① メモ: インベントリコレクタ機能のいくつかは、Server Administrator (64 ビット) でサポートされていません。 				
Windows : SM SA Data Manager Linux : <code>dsm_sa_datamgrd</code> (dataeng サービス下で)	システムの監視、詳細なエラーとパフォーマンス情報への迅速なアクセスの提供し、シャット	ユーザーはこれらのサービスを実行することなく GUI/CLI 上でハードウェアレベルの詳細	サービスの再起動	重要

表 15. Server Administrator サービス (続き)

サービス名	説明	障害の影響	リカバリメカニズム	重大度
ホストされています) (このサービスは管理下システム上で実行されます。)	ダウン、起動、セキュリティを含む監視下システムのリモート管理を可能にします。	を設定、表示することはできません。		
SM SA Data Manager (Windows) Linux : dsm_sa_eventmgrd (dataeng サービス下でホストされています) (このサービスは管理下システム上で実行されます。)	オペレーティングシステムとシステム管理用のファイルイベントログサービスを提供し、イベントログアナライザによっても使用されます。	このサービスが停止されると、イベントログ機能が正しく動作しなくなります。	サービスの再起動	警告
Linux : dsm_sa_snmpd (dataeng サービス下でホストされています) (このサービスは管理下システム上で実行されます。)	データエンジン Linux SNMP インターフェース	SNMP get/set/trap 要求は管理ステーションからは実行できません。	サービスの再起動	重要
Windows: mr2kserv (このサービスは管理下システム上で実行されます。)	ストレージ管理サービスは、ストレージ管理情報と、システムに接続されたローカルまたはリモートストレージを設定するための高度な機能を提供します。	ユーザーは、すべての対応 RAID および非 RAID コントローラに対するストレージ機能を実行することはできません。	サービスの再起動	重要

よくあるお問い合わせ (FAQ)

本項には、Server Administrator に関してよくあるお問い合わせ (FAQ) を掲載しています。

① | メモ: 以下の質問は、このリリースの Server Administrator に特定のものではありません。

1. Server Administrator をインストールするのに必要な最低許可レベルは何ですか？

Server Administrator をインストールするには、管理者レベルの権限を持っている必要があります。パワーユーザーおよびユーザーには、Server Administrator をインストールする権限がありません。

2. 自分のシステムに適用できる Server Administrator の最新バージョンを知るにはどうしたらいいですか？

support.dell.com にログオン→ソフトウェアおよびセキュリティ→Enterprise System Management → OpenManage Server Administrator と進みます。

このページに、使用可能なすべての Server Administrator バージョンが表示されます。

3. システムでどのバージョンの Server Administrator が実行されているかを知るにはどうしたらいいですか？

Server Administrator にログインした後、**プロパティ** → **概要** と進みます。システム管理 行で、システムにインストールされている Server Administrator のバージョンがわかります。

4. 1311 以外にユーザーが使用できるポートはありますか？

はい、優先 https ポートを設定できます。**プリファレンス** → **一般設定** → **Web サーバ** → **HTTPS ポート** と進みます。

[デフォルトを使用] の代わりに [使用] ラジオボタンを選択して、希望のポートを設定します。

① | メモ: ポート番号を無効または使用中のポート番号に変更すると、他のアプリケーションまたはブラウザが管理下システムの Server Administrator にアクセスできなくなる場合があります。デフォルトポートのリストに関しては、dell.com/openmanagemanuals で『Server Administrator インストールガイド』を参照してください。

5. Server Administrator を Fedora, College Linux, Mint, Ubuntu, Sabayon、または PCLinux にインストールできますか？

いいえ、Server Administrator はこれらのオペレーティングシステムをサポートしていません。

6. Server Administrator は問題発生時に電子メールを送信できますか？

いいえ、Server Administrator は問題発生時に電子メールを送信するようには設計されていません。

7. PowerEdge の ITA 検出、インベントリおよびソフトウェアアップデートに SNMP は必要ですか？ CIM は検出、インベントリ、およびアップデートに単体で使用できますか、それとも SNMP が必要ですか？

ITA が Linux システムと通信する場合：

検出、状態ポーリング、インベントリを行うには、Linux システム上に SNMP が必要です。

ソフトウェアアップデートは、SSH セッションとセキュア FTP を介して行われ、それぞれの動作にルートレベルの権限 / 資格情報が必要であり、その処置を設定または要求するときはその提示を求められます。検出範囲からの資格情報は前提となりません。

ITA が Windows システムと通信する場合：

サーバ (Windows Server オペレーティングシステムが稼動するシステム) では、ITA による検出用に SNMP および CIM のいずれかまたは両方が設定されている可能性があります。インベントリには CIM が必要です。

Linux の場合と同様に、ソフトウェアのアップデートは検出、ポーリングおよび使用プロトコルとは無関係に行われます。

アップデートのスケジュール時または実行時に求められた管理者レベルの資格情報を使って、ターゲットシステム上のドライブに対する管理用 (ドライブ) 共有が確立され、他の場所 (別のネットワーク共有など) からコピーされているファイルはターゲットシステムにコピーされます。その後 WMI 関数が呼び出されて、ソフトウェアアップデートを実行します。

クライアント / ワークステーションには Server Administrator がインストールされていないため、ターゲットで OpenManage Client Instrumentation を実行するときには CIM 検出が使用されます。

ネットワークプリンタやその他の多くのデバイスでは、デバイスとの通信 (主として検出) には SNMP が標準として使用されています。

EMC ストレージなどのデバイスには専有プロトコルがあります。この環境に関する情報の一部は、使用しているポートを参照して収集できます。

8. SNMP v3 をサポートする予定はありますか？

いいえ、SNMP v3 をサポートする予定はありません。

9. ドメイン名に下線文字を含めると Server Admin へのログインに問題が生じますか？

はい、下線文字を含むドメイン名は無効です。その他すべての特殊文字（ハイフン以外）も無効です。大文字と小文字が区別されるアルファベットおよび数値のみを使用してください。

10. Server Administrator のログインページ上で「Active Directory」をチェックまたはチェック解除することで、特権レベルにどのような影響がありますか？

Active Directory チェックボックスを選択しない場合、Microsoft Active Directory で設定したアクセス権のみを使用できます。Microsoft Active Directory で拡張スキーマソリューションを使用してログインすることはできません。

このソリューションは、Server Administrator へのアクセスを提供し、お使いの Active Directory ソフトウェアに対して Server Administrator ユーザーと権限を追加/制御することを可能にします。詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『**Server Administrator インストールガイド**』の「Microsoft Active Directory の使用」を参照してください。

11. Kerberos 認証を行ってウェブサーバーからログインするときに必要な操作は何ですか？

認証に関して、管理下ノードの `/etc/pam.d/openwsman` と `/etc/pam.d/sfcb` ファイルの内容を以下で置き換える必要があります。

```
auth required pam_stack.so service=system-auth auth required /lib64/security/pam_nologin.so
account required pam_stack.so service=system-auth
```

12. Server Administrator アラートは SNMP トラップには表示されません。SNMP トラップを有効にするための設定方法は？

Server Administrator アラートを有効にするための SNMP 設定のセットアップの手順に従ってください。

- `esxcli system snmp set --communities public`
- `esxcli network firewall ruleset set --ruleset-id snmp --allowed-all true`
- `esxcli network firewall ruleset set --ruleset-id snmp --enabled true`
- `esxcli system snmp set -t <target_ip>@162/public`
- `esxcli system snmp set --enable true`

Dell EMC PowerEdge サーバーのシリーズの特定

PowerEdge シリーズの Dell EMC サーバーは、構成に基づいて異なるカテゴリに分けられます。簡単に参照できるように、これらは YX2X、YX3X、YX4X、YX4XX、YX5XX サーバー シリーズと呼ばれます。命名規則の構造は次のとおりです。

文字 Y はサーバーのモデル番号のアルファベットを示します。アルファベットはサーバーのフォーム ファクターを表します。フォーム ファクターは、以下のとおりです。

- クラウド (C)
- 柔軟 (F)
- モジュラー型 (M または MX)
- ラック (R)
- タワー (T)

文字 X はサーバーのモデル番号の数字を表します。これらの数字は、サーバーに関する複数の項目を表します。

- 1 番目の X は、サーバーのバリュー ストリームまたはクラスを示します。
 - 1~5 - iDRAC Basic
 - 6~9 - iDRAC Express
- この数値は、サーバーのシリーズを示します。これはサーバーの命名規則で保持され、文字 X で置き換えることはできません。
 - 0 - シリーズ 10
 - 1 - シリーズ 11
 - 2 - シリーズ 12
 - 3 - シリーズ 13
 - 4 - シリーズ 14
 - 5 - シリーズ 15
- 3 番目の X は、サーバー シリーズがサポートするプロセッサ ソケットの数を示します。これは、PowerEdge サーバーのシリーズ 14 からのみ適用されます。
 - 1-1 ソケット サーバー
 - 2-2 ソケット サーバー
- 最後の X は、以下に示すように、常にプロセッサの製造元を示しています。
 - 0 - インテル
 - 5 - AMD

表 16. PowerEdge サーバーの命名規則と例

YX3X サーバー	YX4X システム	YX4XX システム	YX5XX
PowerEdge M630	PowerEdge M640	PowerEdge R6415	PowerEdge R6515
PowerEdge M830	PowerEdge R440	PowerEdge R7415	PowerEdge R7515
PowerEdge T130	PowerEdge R540	PowerEdge R7425	PowerEdge R6525